

実務経験のある教員等 による授業科目の授業 計画(シラバス1)

授 業 概 要

科目名	総合人間学	担当者	大村 壮 守屋治代	開講時期	1年次前期	単位時間	20時間 /1単位
ディプロマポリシーで目指す力		責任と役割を果たす力・思いやる力					
学修内容	人間学には様々な角度からのアプローチがあるが、本稿では、看護が対象とする「人間」を理解するための基盤となる観点に限定して学修する。また、看護とは、自分とは「異質な他者」に対して、その人の生活や人生に何らかの益となることを願って、他者である看護者が「その人」に働きかける矛盾に満ちた仕事(業)である。このような前提に立って、人間という存在と、人間と他者との関係性をホリスティック(全体的・全関連的)に理解するための観点を学修する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多次元的に存在している人間をホリスティック(全体的)に捉えるとはどういうことかを考える 2. 人間を理解することへの関心と、そのための様々な観点を述べる 3. 理解困難な「他者」を理解する方法について述べる 4. 自らの関りを通して具体的な「他者」理解を試み、自分の理解を述べる 						
授業計画	授業テーマ			方法 (形成評価等を含む)			
	第1回: 科目オリエンテーション、物事を理解することとは 第2回: 自然のなかの人間存在の位置づけ、人間存在の構造 第3回: 生命体としての人間・生活する人間とは 第4回: 人間が心をもっているということとは 第5回: 人間が生涯を通して成長発達することとは 第6回: 人間がストレス・困難を生き抜いていくこととは 第7回: 人間が病・障害・死を生きるとは 第8回: 人間対人間の関係とは 第9回: 他者を理解することとは 第10回: 他者への関りを実践することとは ※第4回・第5回は大村講師が担当、その他は守屋講師が担当			・講義および状況に応じてグループワークを行います ・各講義終了後にリアクションペーパーを提出し、講義への関心や理解度を表明してもらいます			
成績評価	・方法 各講義毎のリアクションペーパー・講義への参加状況・最終課題レポートによる総合評価 ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題 各講義のなかで随時提示する ・留意点 知識を丸ごと暗記する必要はありません。常に具体的な事例とつなげて理解してください。(守屋) 授業は教員が一方的に喋っているだけでは成り立ちません。また教員が正解を話しているとも限りません。教員の話に鵜呑みにせず、いつも自分なりに考えながら授業に取り組んでもらいたいです。(大村)						
テキスト・必要物品	・テキスト 詩実利彦: 人間であること 岩波新書 1970 Joice Travelbee 長谷川浩 他訳: 人間対人間の看護 医学書院 1974 ・必要物品						
参考文献	・薄井坦子編集: ナイチンゲール言葉集 看護への遺産 現代社 1995 ・V.E.フランクル, F.クロイツァー(山田邦男他訳): 宿命を超えて、自己を超えて 春秋社 1997 ・マーガレット A. ニューマン(手島恵訳): マーガレットニューマン看護論 医学書院 1995 ・佐々涼子: エンド・オブ・ライフ 集英社インターナショナル 2020						

授 業 概 要

科目名	形態機能学総論	担当者	吉野 吾朗	開講時期	1年前期	単位時期	15時間 /1単位
ディプロマポリシーで目指す力		看護を実践する力					
学修内容	医療職として、また看護師として生命活動を支えるため、人体の仕組みを理解することが必要である。看護の専門性である診療の補助や生活を整え支援するための基盤となる。生物の体の成り立ちや人体の部位名称を理解し人体を構成する仕組みと働きに関する基礎知識はこれから学習する解剖生理、病態生理治療論、薬理学、生化学など前提となる科目である。						
到達目標	人体の部位の名称や臓器の名称を学ぶ。 人体を構成するしくみと働きに関する基礎的な知識を習得する。 人間の日常生活行動を支える生命活動である体や臓器を守るしくみを学ぶ。						
授業計画	授業テーマ				方法（形成評価等を含む）		
	第1回：講義	自己紹介、解剖学用語			講義形式(配布資料等) 試験		
	第2回：講義	器官					
	第3回：講義	組織					
	第4回：講義	組織、細胞					
	第5回：講義	細胞					
	第6回：講義	ホメオスタシス					
	第7回：講義	体温					
	第8回：試験	試験(45分)					
成績評価	・方法 筆記試験(配点は評価配分表を参照) ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題 ・留意点 受講生への要望： 予習してきて下さい(指定された範囲のテキストを読んでくる)。						
テキスト・必要物品	・テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院 ・必要物品						
参考文献	増田敦子監修 解剖生理をおもしろく学ぶ				サイオ出版		

授 業 概 要

科目名	形態機能学Ⅰ 咀嚼と嚥下・消化吸収のしくみ	担当者	安達百合 杉渕美里	開講時期	1年次前期	単位時間	20時間 /1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力					
学修内容	人間にとって「食べる」ことは、生命の維持や活動していくために必要不可欠なエネルギー源を得ることであり、日常生活行動のひとつである。人間の日常生活活動である咀嚼と嚥下の仕組みや消化・吸収・排泄する仕組みを理解し、健康状態の変化を状況に応じてアセスメントするために必要な基礎知識を習得する。						
到達目標	1)「食べる」ことの意義を理解できる 2)咀嚼と嚥下のメカニズムが理解できる 3)栄養の消化・吸収の仕組みを理解できる 4)消化・吸収後に排泄されていく仕組みを理解できる 5)消化・吸収の状態から健康状態の変化や日常生活への影響を理解できる						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回	消化管はどんな器官だろう/食べることの意義	安達	講義			
	第2回	体験から学ぼう 嚥下運動のメカニズム	安達	演習			
	第3回	体験から学ぼう 咀嚼と食塊形成のメカニズム	安達	演習			
	第4回	咀嚼と嚥下の過程	安達	講義			
	第5回	消化と吸収 胃・小腸の構造と機能	安達	講義			
	第6回	消化と吸収 肝臓・胆のうの構造と機能	杉渕	講義			
	第7回	消化と吸収 膵臓の構造と機能	杉渕	講義			
	第8回	消化と吸収 栄養素の消化と吸収	杉渕	講義			
	第9回	大腸の構造と機能/食物が排泄されるまでの旅路	杉渕	講義			
	第10回	筆記試験	杉渕		<small>※演習では実際の体験から咀嚼と嚥下のメカニズムを覚えていきます。</small> <small>※講義後は小テストあり。</small>		
成績評価	・方法 筆記試験65%、小テスト35%、授業の取り組み姿勢 ・基準 本校の基準に沿って評価する						
事前課題・留意点	・事前課題 講義前に提示します。 ・留意点 自分自身の体について興味を持ち、普段あまり意識することなく行っている「食べる」という行動を意識して学ぶ。 そして、食べ物から栄養を吸収した後の体の中でどのように代謝して体は動くことができるのか考え、他者の意見を聞き学ぶ姿勢を持つこと。 この単元での学びを、看護方法Ⅰにつなげていく。						
テキスト・必要物品	・テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学 ・必要物品 授業前に提示する。						
参考文献	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ						

授 業 概 要

科 目 名	形態機能学Ⅱ 「身体を支える仕組み・動かす仕組み」	担 当 者	片山 聖治	開 講 時 期	1年次前期	単 位 時 間	10/25時間 1単位
	ディプロマポリシーで目指す力		実践する力				
学 修 内 容	運動機能とは、単に身体を動かすことだけでなく生命維持のための心臓や肺、コミュニケーションのための目や口、表情、食物を消化吸収することや排泄の機能も其々の筋肉による運動である。このように人間が生きることに「運動」は欠かすことができないもので、それを支える骨や筋肉、操っている脳神経などを理解することは人間の活動を理解するための重要な学習である。障がいや疾病によって様々な運動機能が障がいされることは、臨床ではしばしば見られる症状である。この障がいや症状を理解した上看護を実践するために、本来の健康な人間の運動のメカニズムを学ぶ。						
到 達 目 標	1) 骨の構造と形成、仕組みについて理解する。 2) 筋の構造と収縮メカニズムについて理解する。 3) 全身を覆い運動を支える骨格筋の構造と仕組みを理解する。 3) 全身を覆い運動を支える骨格筋の構造と仕組みを理解する。 4) 生命活動や生活動作を支える運動のメカニズムについて理解する。						
授 業 計 画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1回身体を支える・動かすために必要なことは？						入学前プログラムの確認テスト グループワーク・発表
	第2回骨の仕組みと働き						小テスト: 全身の骨の名称 講義・シンクペアシェアを適宜行う
	第3回筋の仕組みと働き						事前課題: 筋の収縮しくみ 小テスト: 筋の構造と名称 講義・シンクペアシェアを適宜行う
	第4回各部位の筋の特徴						小テスト: 骨・筋の復習テスト 事前課題: 各部位の筋の特徴
	第5回正常な機能が障害されたときの日常生活への影響						ジグソー法を行う グループワーク・発表
成 績 評 価	・方法: 筆記試験(20%) 講義内で実施する小テストは10%の評価とする。 ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題 「骨の構造と名称」「筋の構造と名称」の事前課題資料を使用し学習する。 ・留意点 自分の身体を動かし、イメージしながら学んでほしい。 視聴覚教材のDVD(生体のしくみ第15・16集)を講義の中で使用する。DVDは学内であれば貸出可能である個人の復習として活用してほしい。						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能(1)解剖生理学 医学書院 増田敦子他: 解剖生理学をおもしろく学ぶ サイオ出版 系統看護学講座 専門基礎分野 病態生理学 医学書院 ・必要物品						
参 考 文 献	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(10)運動器 医学書院 菱沼典子: 看護形態機能学 改訂版 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版会 ナーシンググラフィカ① 人体の構造と機能 解剖生理学 メディカ出版						

授 業 概 要

科目名	形態機能学Ⅱ 「体液調節と尿生成のしくみ」	担当者	前田 信吾 増田 瑞枝	開講時期	1年次 前期	単位時間	15/25時間 1単位
	ディプロマポリシーで目指す力		看護を探求する力		看護を実践する力		
学修内容	<p>私たちは、毎日排便するとは限らない。しかし、排尿しない日はない。これは、腎臓において、体内で産生される老廃物や過剰な電解質を水に溶解させ、速やかに体外へ排出しているためである。尿を生成することにより、循環する血液の量とその科学的組織は、一定に保たれる。本単元では、生命を維持していく上で必要不可欠な体液の恒常性(ホメオスタシス)を保つ生理機能である、尿を生成するしくみと排尿するしくみについて学ぶ。排尿するしくみについては、自己の体験をふまえ、トイレに行くという一連の排泄行動を含めて学ぶ。健康状態の変化を状況に応じてアセスメントするために必要な基礎知識を、習得する。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 腎臓の構造とメカニズムを理解する 2. 糸球体・尿細管の組織構造とそのメカニズムを理解する 3. 糸球体装置の構造とそのメカニズムを理解する 4. 傍糸球体装置の構造とそのメカニズムを理解する 5. 蓄尿・排尿のメカニズムを理解する 6. 日常生活での自己の正常な排尿行動を意識することで異常がわかる 						
授業計画	授業テーマ						方法 (形成評価等を含む)
	第1回 尿とは何か (増田)						講義
	第2回 尿の生成のしくみ① (前田)						講義
	第3回 尿の生成のしくみ② (前田)	腎臓の構造とメカニズム					講義
	第4回 尿の生成のしくみ③ (前田)	糸球体と尿細管 メカニズム(濾過・再吸収・分泌)					講義
	第5回 尿の排泄のしくみ (増田)	傍糸球体装置 メカニズム					講義
	第6回 体液量・血圧を調整するしくみ (増田)	蓄尿・排尿のしくみと神経 尿の通り道					講義
	第7回 尿の生成と排尿までの一連の流れをまとめよう	レニンアンギオテンシン-アルドステロン系					グループワーク 発表: 講義
	第8回 学科試験						筆記試験
成績評価	<p>・方法 筆記試験 (形態機能学Ⅱのうち25点配点) (前田先生:15点・増田:10点) 授業への取り組み姿勢</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>						
事前課題・留意点	<p>・事前課題 事前課題をもとに授業をすすめていきます。しっかり準備をして臨みましょう。</p> <p>・留意点 自分の身体や生活行動に結びつけて、尿の生成のしくみ・排尿のしくみを理解していきましょう。毎回の講義後はテキストの関連箇所を読み、理解を深めていきましょう。</p>						
テキスト・必要物品	<p>・テキスト 坂井建雄他：系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学 医学書院 増田敦子他：解剖生理をおもしろく学ぶ サイオ出版</p> <p>・必要物品</p>						
参考文献	<p>阿部信一他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8]腎・泌尿器 医学書院 病気がみえる ⑧腎・泌尿器 メディックメディア 金子大輔：世界一まじめなおしこ研究所 保育社 菱沼典子：看護形態機能学 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版会 菱沼典子：図解 見えない身体 ライフサポート社 ナーシング・グラフィカ① 人体の構造と機能 解剖生理学 メディカ出版 一般社団法人 日本腎不全看護学会：腎不全看護 第5版 医学書院</p>						

授 業 概 要

科目名	形態機能学Ⅳ 情報の受容と処理	担当者	後藤治美 西川はるみ 橋本圭子	開講時期	1年次後期	単位時間	24/30時間 1単位	
	ディプロマポリシーで目指す力		実践する力					
学修内容	人間が日常生活活動をするうえで、外部からの情報を取り入れ情報を判断し伝達することや話し考えることの仕組みを理解する。これらの一連の活動は感覚受容器から、神経回路を經由し脳など中枢神経へ、脳から抹消神経を経て骨格筋などの効果器へ伝達される。日常的で無意識に行っている行動が脳神経の働きによって成り立っていることを理解し、人間の活動や感情、思考が脳神経のメカニズムであることを学ぶ。その上で病態理治療論Ⅳでの脳機能疾患、神経疾患のメカニズム、治療を学ぶことで正常な機能が障害された方への看護へつなげていく。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 神経系の全体像をとらえ、中枢神経系・末梢神経系の役割を理解する。 2. 「話す」「考える」メカニズムについて理解する。 3. 自律神経の構造・機能を理解する。 4. 感覚受容器の種類・しくみを理解する。 5. 感覚受容器の機能や特徴を理解する 6. 神経系の障害による症状と生活への影響を考える。 							
授業計画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）	
	第1回 中枢神経の解剖、脊髄の構造と機能						入学前プログラムの知識ためしテスト	
	第2回 中枢神経系・末梢神経系の役割						講義・シンクペアシェア	
	第3回 中枢神経系・末梢神経系の役割						講義・シンクペアシェア・ポストテスト	
	第4回 運動機能と下行伝導路、感覚機能と上行伝導路						講義・シンクペアシェア・ポストテスト	
	第5回 自律神経系						講義・シンクペアシェア・ポストテスト	
	第6回 大脳の役割						講義・シンクペアシェア・ポストテスト	
	第7回 大脳の役割：記憶のしくみ						講義・シンクペアシェア・ポストテスト	
	第8回 大脳の役割：話すこと・眠ることの仕組み						講義・シンクペアシェア・ポストテスト	
	第9回 感覚器（感覚機能の仕組み）眼の構造と視覚、						講義・シンクペアシェア・ポストテスト	
	第10回 耳の構造と聴覚・平衡覚、味覚の特徴						講義・シンクペアシェア・ポストテスト	
	第11回 痛みのメカニズム						講義・シンクペアシェア・ポストテスト	
	第12回 学科試験・まとめ							
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法：筆記試験・課題提出状況および課題内容・参加姿勢 後藤40点 西川10点 橋本30点 寶石20点 ・基準 本校の基準に沿って評価する。 							
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 入学前プログラムの復習。解剖学的な部位、名称、生理機能はテキストなどを活用し必ず予習をして参加 ・留意点 毎回の講義終了後、講義内容と関連する箇所のテキストを読み、理解を深めてください。 視聴覚教材のDVD（生体のしくみ第12集）を講義の中で使用する。DVDは学内であれば貸出可能である。 個人の復習として活用してほしい。 							
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能(1)解剖生理学 医学書院 増田敦子他 解剖生理学をおもしろく学ぶ サイオ出版 系統看護学講座 専門基礎分野 病態生理学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 脳・神経 医学書院 ・必要物品 							
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> 岡庭豊 病気がみえる 脳神経 第1版 メディックメディア 熊谷たまき他監修 フィジカルアセスメントがみえる 第1版 メディックメディア ナーシンググラフィカ① 人体の構造と機能 解剖生理学 メディカ出版 							

授 業 概 要

科目名	形態機能学Ⅳ 「子孫を残す」	担当者	寶石 江里子	開講時期	1年次 後期	単位時間	6/30時間 /1単位
ディプロマポリシーで目指す力		看護を実践する力					
学修内容	人間は有性生殖で男性と女性の2つの性により子孫を残していく。子孫を残すことが続く限り生命は受け継がれていく。人間が子どもを産むのは生物として遺伝子を残すという本能だけでなく、家族を迎えるという社会的存在の意味もあり極めてプライベートな営みである。この講義では子孫を残すために備わった男女の性の違いを知り、性に関わる器官と構造を学習する。また、女性が妊娠し出産するまでの胎児が育つ過程についても学習していく。各器官が障害されたとき日常生活にどのような影響があるのかを知り、病態生理治療論Ⅳ(女性生殖器)の学習につなげていく。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 男性の子孫を残すための器官と構造と機能を理解する。 2. 女性の子孫を残すための器官と構造と機能を理解する。 3. 妊娠の成立から胎児の成長過程について理解する。 4. 女性の器官の障害が日常生活に及ぼす影響について理解する。 						
授業計画	授業テーマ						方法 (形成評価等を含む)
	第1回 男女の性別の違い 遺伝子による違い ホルモンによる違い 男性のからだ 構造(精巣・精管・精嚢・前立腺・陰莖) 機能(精子をつくる・精子を送る ホルモン)						講義
	第2回 女性のからだ(1) 構造: 卵巣・卵管・子宮・膈・外陰部 機能: 卵子をつくる・ホルモンを分泌する・性周期 男性・女性の構造と機能の障害について						小テスト 事前学習課題を活用 講義とシンクペアシェアを適宜取り入れる
	第3回 女性のからだ(2) 妊娠の成立/関連するホルモンについて 胎児の成長について(胎児期の生殖器の発生につい						小テスト 事前学習課題を活用 講義・シンクペアシェアを適宜取り入れる
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験(20%) 第2回・第3回目の小テストは成績に含まれない ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 毎回の授業の前に事前課題があります。 ・留意点 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の身体を知ることが自分の生き方を考えるうえで大切です。関心をもって学んでいきましょ ・自分で図を書き学んでいきます。毎回の講義終了後には、講義に関連する箇所のテキストを読み理解を深めてください。 						
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能(1)解剖生理学 医学書院 増田敦子監修 解剖生理をおもしろく学ぶ サイオ出版 ・必要物品 						
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学①母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [9] 女性生殖器 医学書院 菱沼典子著 看護形態機能学 第4版 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版会 						

授 業 概 要

科目名	形態機能学V (身体機能の防御)	担当者	柳原 泰子	開講時期	1年次 後期	単位時間	8/25時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		看護を実践する力					
学修内容	私たちの全身は皮膚と粘膜で覆われ、外部環境から守られている。また、生体内外の環境の変化に応じて自律神経と内分泌系がさまざまな臓器の機能状態を変化させ、内部環境を調節している。これらの構造・機能のおかげで、私たちは意識せずとも安全に日常生活活動を行なうことができている。本科目では、皮膚・粘膜の構造と役割(機能)、全身の内分泌系の構造と役割(機能)を学ぶことを通し、人間の生命活動の一部分を理解し、健康状態の変化を状況に応じてアセスメントするために必要な基礎知識を習得する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人にとっての皮膚・粘膜の重要性を理解する 2. 皮膚・粘膜の解剖学的構造を理解する 3. 皮膚・粘膜の機能とそのしくみを理解する 4. 人にとっての全身内分泌系の重要性を理解する 5. 全身内分泌系の解剖学的構造を理解する 6. 全身内分泌系の機能とそのしくみを理解する 						
授業項目	授業テーマ			方法(形成評価等を含む)			
	第1回 外界からの刺激から体を守る 「皮膚」・「粘膜」の構造				講義		
	第2回 「皮膚」・「粘膜」のもつ働きとそのしくみ				講義		
	第3回 生体内外の環境変化に応じ内部環境を調節し 体を守る「内分泌系」の構造				講義		
	第4回 「内分泌系」のもつ働きとそのしくみ				講義		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験(形態機能学Vのうち30点分の配点) ・基準 本校の基準に沿って評価する 						
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・留意点 講義終了後は毎回、講義内容と関連する箇所のテキストを読み、理解を深めましょう。 						
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 坂井達雄他:系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学 医学書院 増田敦子他:解剖生理をおもしろく学ぶ サイオ出版 ・必要物品 						
参考文献							

授 業 概 要

科目名	形態機能学Ⅴ 「体を守るしくみ・血液」	石間香里	開講時期	1年次 後期	時間 単位	4/25時間 1単位
	ディプロマポリシーで目指す力		看護を実践する力			
学修内容	「体を守るしくみ」では人間が日常生活活動を安全に行うための防御機構について学習する。全身を覆う皮膚や粘膜、異物を認識・記憶して排除する免疫の仕組み、ホルモン調節機能とともに全身を流れる血液の組成や機能について学ぶ。全身的な防御機構の中の血液の役割について、メカニズムを理解し基礎知識をつける。さらには感染兆候に応じたアセスメントにつなげていく。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体における血液の重要性を理解する 2. 血液の構造を理解する 3. 血液の機能とそのしくみを理解する 4. 血液と生体防御機能のつながりを知る 					
授業項目	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）		
	第1回	血液の組成と機能～赤血球・白血球の働き～		講義に加え、事前学習課題に基づきグループ学習、シンクシェアペア、小テストを実施		
第2回	血小板と血液凝固機能・血液型について					
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験（20点） ・基準 本校の基準に沿って評価する。 					
事前課題 留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 各回で事前課題を出します。グループ学習に参加できるように実施し臨んでください。 ・留意点 講義終了後は講義内容と関連する箇所のテキストを読み、理解を深めましょう。 					
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 坂井建雄他：系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学 医学書院 増田敦子他：解剖生理を面白く学ぶ サイオ出版 ・必要物品 					
参考文献	ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能1 解剖生理学 メディカ出版					

授 業 概 要

科目名	形態機能学Ⅴ (免疫・ホルモンのしくみ)	担当者	増田 瑞枝	開講時期	1年次後期	単位時間	13/25時間 1単位
	ディプロマポリシーで目指す力		看護を探求する力				看護を実践する力
学修内容	人間が健康な体を保つための体内の防御機構について学習する。異物を認識・記憶して排除する免疫のしくみ、ホルモン調節機能等の段階的な機構のメカニズムを理解する。感染防御機能は日常生活の中での微生物の働きと感染予防の重要性などにつながる学習である。人間の体で免疫機能低下が原因でおこるさまざまな感染徴候を形態機能学の既習知識をもとに理解を深め、感染予防の重要性を看護者としての視点の広がりへと繋げていく。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 異物を認識・排除するための免疫の仕組みについて理解する。 2. ホルモン調節機能のメカニズムを理解する。 3. 感染予防の重要性と、感染防御機構について理解する。 						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回	免疫とは		講義 講義 小テスト 講義 小テスト 講義 小テスト 講義・グループワーク グループ内発表			
第2回	ホルモンとは						
第3回	ホルモン調節機能のメカニズム						
第4回	感染とは						
第5回	感染予防と免疫力の効果を高めるメカニズム①						
第6回	感染予防と免疫力の効果を高めるメカニズム②						
第7回	学科試験						
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験(50点分) 授業への取り組み姿勢 ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 授業で説明します。個人ワークをもとにグループワークを進めていきます。しっかり準備をしておんでください。 ・留意点 皮膚・血液についての既習知識を活用して学習を進めていきます。自分の身体の中をイメージしながら、関心をもって学んでいきましょう。 毎回の講義終了後には、講義に関連する箇所のテキストを読み、理解を深めていきましょう。 						
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院 増田敦子監修 解剖生理をおもしろく学ぶ サイオ出版 ・必要物品 						
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> 菱沼典子著:看護形態機能学 第4版 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版会 清村紀子編:フィジカルアセスメントの根拠がわかる機能障害からみたからだのメカニズム 医学書院 						

授 業 概 要

科目名	病理学	担当者	関 常司 平松 毅幸	開講時期	1年前期	単位時間	15時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		看護を実践する力					
学修内容	疾病の概略や用語の理解、疾病の発生機序と回復過程の理解を進め、状況に応じてアセスメントし、健康状態の変化やリスクの判断に必要な知識を学習する。 疾患の成立する仕組みのうち、免疫、炎症、感染症、腫瘍に関して講師が説明する。						
到達目標	1. 疾病の発生機序と回復の過程を理解する。 2. 医学用語の意味を理解し、読み書き出来る。						
授業計画	授業テーマ				方法（形成評価等を含む）		
	【関先生】 第1回：講義 ①病理学とは ②先天異常と遺伝子異常 第2回：講義 ③代謝障害 ④循環障害 【平松先生】 第1回：講義 免疫 第2回：講義 免疫 第3回：講義 炎症・感染症 第4回：講義 感染症 第5回：講義 腫瘍 第6回：講義 腫瘍				講義形式（配布資料等）		
成績評価	・方法（関） 筆記試験（配点は評価配分表を参照） ・方法（平松） 筆記試験（配点は評価配分表を参照）、出席状況、配布プリントの正答率 ・配布プリントを真面目に記入し、提出完了していなければ、筆記試験は受験出来ません。 ・総点数の70%は筆記試験点数。 ・総点数の30%は配布プリントの穴埋め点数。 配布プリントの穴埋めに、漢字間違いがある時や 仮名で置き換えて書いてある時は、間違いとみなします。 ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題 ・留意点（関先生） ① 受講前に15分間テキストを読むこと。 ② 受講後に5分間ノートを見なおすこと。 ・留意点（平松先生） ① 講義中に私語をする学生は退室してもらいます。配布プリントは講義の度に必ず持参すること。忘れても余分はありません。 ② 配布プリントの空欄の答えを、講義のスライドを見て真面目に記入すること。各単元（免疫、炎症、感染症、腫瘍）が終了した時に配布プリントは回収し、採点后、筆記試験の前までには、すべて返却します。 ③ 配布プリントの提出が間に合わなかった学生は、提出期限の4日目迄に担任に提出すること。						
テキスト・参考図書	・テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [1] 病理学 医学書院 ・必要物品 授業資料、配布したプリント						
参考文献	シンプル病理学 休み時間の免疫学（第3版）		南江堂 講談社				

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論Ⅰ	担当者	森 正次 景岡 正信	大島 昭彦 石原 行雄	開設時期	1年次前期	単位時間	20時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力			看護を実践する力					
学修内容	看護上必要となるフィジカルアセスメントの基礎として、病理学・形態機能学Ⅰの学習内容と連動させ、主な消化機能障害、肝臓疾患、口腔歯科疾患の基礎知識を学ぶ。形態機能で学んだ正常な構造と機能のメカニズムの障害による疾患と症状、治療について理解しやすい纏まりとして学ぶ。							
到達目標	1) 主な消化機能障害のうち口腔機能疾患について病態生理、症状、診断、治療までの医学的知識を理解する 2) 膵臓の特徴的な疾患を取り上げ、病気のプロセスと病態生理、特徴的な症状と経過、診断の基準、検査データ、治療方法、予後について理解する 3) 肝臓、胆道系の特徴的な疾患を取り上げ、病気のプロセスと病態生理、特徴的な症状と経過、診断の基準、検査データ、治療方法、予後について理解する 4) 消化器系の特徴的な疾患を取り上げ、病気のプロセスと病態生理、特徴的な症状と経過、診断の基準、検査データ、治療方法、予後について理解する							
授業計画	授業テーマ							方法（形成評価等を含む）
	【森先生】 第1回：講義 口腔の基礎、口腔外科的疾患 第2回：講義 口腔外科疾患、口腔ケア、周術期口腔機能管理 【大島先生】 第3回：講義 膵臓の解剖と生理、炎症、腫瘍 【景岡先生】 第4～6回：講義 肝、胆道の病態生理 【石原先生】 第7・8回：講義 食道、胃、十二指腸の疾患 第9・10回：講義 腸疾患、腹膜の疾患、ヘルニア、大腸がん							視聴覚教材など、学生がイメージしやすい教材を活用して講義する。
成績評価	方法	筆記試験（配点は評価配分表を参照）						
	基準	本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	事前課題							
	留意点	授業は主にPCを利用し、プリントを資料として配布します。（森） 質問をするようにして下さい。（石原） 看護の基本を考えながら受講して下さい。（景岡） 看護とどう結びつくか考えながら受講して下さい。（大島）						
テキスト・必要物品	テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [15] 歯：口腔		医学書院				
		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [5] 消化器		医学書院				
	必要物品							
参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院							

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論Ⅱ (運動器:骨・筋)(腎・泌尿器)	担当者	徳山 周 池谷 直樹	開講時期	1年次前期	単位時間	20時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		看護を実践する力					
学修内容	看護上必要となるフィジカルアセスメントの基礎として、病理学・形態機能学Ⅱと運動させ、主な排泄機能障害、運動機能障害についての基礎知識を学ぶ。尿の生成のメカニズム、腎機能が正常でなければ、全身の水分、電解質、浸透圧、循環血液量、血圧などその影響は複雑多様である。異常のメカニズムと症状、検査結果と治療を関連付けて学べることが大切である。運動器の障害は生活行動に直結する場合が多い、骨や筋肉などの異常による症状と合併症などの影響、リスクなどを考慮し、理学療法の必要性などにも繋がるよう科目設定した。						
到達目標	以下の事項について基礎知識を学び、理解する。 主な排泄機能(腎臓、尿管、膀胱など)の障害、腎機能の障害による水分、循環血液量の影響、電解質等の異常による症状と治療 運動機能(骨、筋、関節など)障害、骨折・筋や関節の炎症の病態生理・症状・診断・治療						
授業計画	授業テーマ						方法(形成評価等を含む)
	<p>【池谷先生】</p> <p>第1回:講義 腎・泌尿器系の解剖・生理</p> <p>第2回:講義 症状と検査</p> <p>第3回:講義 CKD 慢性腎臓病</p> <p>第4回:講義 AKI 急性腎障害</p> <p>第5回:講義 泌尿器科的疾患</p> <p>第6回:講義 腎代替療法</p> <p>【徳山先生】</p> <p>第7回:講義 筋骨格系の基本を理解する</p> <p>第8回:講義 神経の構造と機能を理解する</p> <p>第9回:講義 骨折総論+運動器における専門用語を理解し、使えるようになる</p> <p>病態の理解とその対応を学ぶ</p> <p>第10回:講義 骨折各論、総まとめ</p>						講義形式(配布資料、視聴覚教材等)
成績評価	・方法	筆記試験(配点は評価配分表を参照)					
	・基準	本校の基準に沿って評価する。					
事前課題・留意点	・事前課題						
	・留意点	質問等、積極的に授業に参加してほしいです。(徳山)					
テキスト・必要物品	・テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [8] 腎・泌尿器	医学書院				
		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [10] 運動器	医学書院				
	・必要物品						
参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学						医学書院

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論Ⅲ	担当者	田村 亨治 江間 俊哉 渡邊 明規	開講時期	1年次前期・ 後期	単位時間	20時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力			看護を実践する力				
学修内容	看護上必要となるフィジカルアセスメントの基礎として、病理学・形態機能学Ⅲと運動させ、主な呼吸機能(気管、気管支、肺、肺胞など)障害、呼吸のメカニズムを理解し、生体の換気に関するメカニズムから、障害の原因と治療、低酸素状態の症状と酸素療法について学ぶ、また、酸素化のメカニズムでは、循環(心臓の機能、血管や血圧などの)の機能障害について心不全の発生のメカニズムと治療について呼吸と循環の関係を学ぶ。						
到達目標	主な呼吸器機能障害、循環器機能障害の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を理解する。						
授業計画	授業テーマ				方法(形成評価等を含む)		
	[田村先生] 第1回: 講義 感染症(インフルエンザ、COVID-19、肺炎、結核) 第2回: 講義 気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患 第3回: 講義 間質性肺疾患 [江間先生] 第4回: 講義 肺の解剖、呼吸生理、肺癌の病態、肺癌の外科治療、内視鏡手術の実際 第5回: 講義 胸部外傷、気胸、縦隔腫瘍 [渡邊先生] 第6～10回: 講義 循環器系の解剖・生理 疾患について ①総論から心不全、症候について ②各論 心肺蘇生について				教科書の内容に、各種疾患の国内ガイドラインなどの内容を加えてなるべく新しい知見を紹介する。 講義形式(配布資料等) 講義形式(配布資料等) ①主にPowerPointでのスライド ②心肺蘇生については動画ビデオ		
成績評価	・方法 筆記試験(配点は評価配分表を参照) ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題 ・留意点 受講生への要望: しっかり復習してください。(田村)						
テキスト・必要物品	・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [2] 呼吸器 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [3] 循環器 医学書院 ・必要物品						
参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院						

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論Ⅳ (耳鼻咽喉・女性生殖器・自律神経・眼・脳神経系・乳房)	担当者	吉見 亘弘・黒田 健治・酒井 直樹 松永 寛美・竹原 誠也・平松 毅幸	開講時期	1年次後期	単位時間	30時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		看護を実践する力					
学修内容	耳鼻咽喉領域、女性生殖器領域、神経領域、眼領域、脳神経領域、乳房領域の、検査および疾患の病態・治療法について学ぶ。						
到達目標	健康な身体が病的状態となる過程と医学的なアプローチの方法を、臨床でよく見られる疾患(主な耳鼻咽喉疾患、女性生殖器疾患、神経機能疾患、眼疾患、脳機能疾患、乳房疾患)の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を、系統的に学び理解する。						
授業計画	授業テーマ						方法 (形成評価等を含む)
	【吉見先生】 第1回: 講義 総論・鼻疾患 第2回: 講義 咽喉頭、頸部疾患						講義形式
	【黒田先生】 第3回: 講義 症状とその病態生理及び婦人科検査 第4回: 講義 女性ホルモン周期とその関連疾患 第5回: 講義 婦人科良性疾患						講義形式
	【酒井先生】 第6回: 神経系の機能と局在 神経変性疾患Ⅰ 第7回: 神経変性疾患Ⅱ 第8回: 自己免疫性神経疾患、神経系の感染症						スライド(パワーポイント)、板書を使った講義形式
	【松永先生】 第9・10回: 講義 眼科疾患と治療について						講義形式
	【竹原先生】 第1回: 神経系の解剖と生理 第2回: 頭部外傷、脳血管障害他 第3回: 脳腫瘍他						重要項目は繰り返して理解を深め、国家試験レベルの内容も加え、求められるべき看護師を目指す。
	【平松先生】 詳細は別紙を参照						
成績評価	・方法 筆記試験(配点は評価配分表を参照)、出席状況、取り組み姿勢 ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題 ・留意点 図や写真を多く用いるので、目で見て授業を理解しましょう。(吉見) おおまかな神経系のしくみや、代表的神経疾患のイメージが出来ればよいと思います。 教科書で復習してください。(酒井) 自主的に予習・復習することを望みます。(松永) 平松先生の留意点は別紙を参照						
テキスト・必要物品	テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ	成人看護学 [14]	耳鼻咽喉	医学書院		
		系統看護学講座 専門分野Ⅱ	成人看護学 [9]	女性生殖器	医学書院		
		系統看護学講座 専門分野Ⅱ	成人看護学 [7]	脳・神経	医学書院		
		系統看護学講座 専門分野Ⅱ	成人看護学 [13]	眼	医学書院		
参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1]	解剖生理学	医学書院				
	イラスト眼科	渡邊郁緒 著	文光堂				
	眼科学	丸尾敏夫ほか 著	文光堂				

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論Ⅳ (乳房)	担当者	平松 毅幸	開講時期	1年後期	単位時間	4/30時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		看護を実践する力					
学修内容	<p>乳房領域の検査および疾患の病態・治療法について学ぶ。乳腺の解剖・生理学的事項と乳腺疾患(特に、乳癌)について、その病態、診断、治療法について理解する。</p> <p>乳腺の解剖・生理学的事項と乳腺疾患(特に、乳癌)について、その病態、診断、治療法について講師が説明する。</p>						
到達目標	<p>健康な身体が病的状態となる過程と医学的なアプローチの方法を、臨床でよく見られる疾患(主な耳鼻咽喉疾患、女性生殖器疾患、神経機能疾患、眼疾患、脳機能疾患、乳房疾患)の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を、系統的に学び理解する。この内、この单元では、乳腺の疾患(特に、乳癌)の発生機序、疫学、治療法を理解し、患者におよその説明が出来るようになる。</p> <p>1. 疾病の発生機序と回復の過程を理解する。 2. 医学用語の意味を理解し、読み書き出来る。</p>						
授業計画	授業テーマ						方法(形成評価等を含む)
	第1回: 講義 乳腺の解剖・生理と乳腺の良性疾患						講義形式(配布資料等)
	第2回: 講義 乳がんの診断と治療法						
成績評価	・方法	筆記試験(配点は評価配分表を参照)、出席状況					
	・基準	本校の基準に沿って評価する。					
事前課題・留意点	・事前課題 ・留意点	<p>① 講義中に私語をする学生は退室してもらいます。</p> <p>② 乳癌の治療法に関しては、全ての固形癌に当てはまるため、全身療法と局所療法に分けて、各々の意義をしっかりと理解してください。</p> <p>③ 病理学の「腫瘍・免疫」等で学んだことを思い出して、今回得た知識を、それに連結するように頭の中で整理してください。</p> <p>④ 乳癌患者のつらさを共感して、適切なケアが出来るようになるには、どうすべきか考えて、講義を受けてください。</p>					
テキスト・必要物品	・テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [9] 女性生殖器					医学書院
	・必要物品						
参考文献	<p>系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院</p>						

授 業 概 要

科 目 名	病態生理治療論V	担 当 者	金本 素子 前田 明則 坂本 益雄 矢田 貝 剛	開 講 時 期	1年次後期	単 位 時 間	30時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		看護を実践する力					
学 修 内 容	看護師を目指す学生にとって必要な免疫の基礎と膠原病、リウマチ疾患・内分泌の基礎知識、糖尿病を中心とした代謝・内分泌疾患、血液の基礎知識、血液造血器の主要疾患について、形態機能Vと連動させ、看護において基礎知識を学ぶ。						
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・免疫の基礎と膠原病・リウマチ疾患の基礎知識を理解する。 ・代謝・内分泌疾患の病態生理・症状・診断・治療までの基礎知識を理解する。 ・血液の基礎知識・血液造血器疾患の病態生理・症状・診断治療の基礎知識を理解する。 ・皮膚の基礎知識・皮膚の疾患の病態生理・症状・診断治療の基礎知識を理解する。 						
授 業 計 画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	<p>【金本先生】</p> <p>第1～3回：講義 前半：免疫学総論 後半：免疫学各論(疾患について)</p> <p>【前田先生】</p> <p>第4回：講義 血液概論</p> <p>第5回：講義 赤血球の異常</p> <p>第6回：講義 白血球の異常、造血器腫瘍①</p> <p>第7回：講義 造血器腫瘍②</p> <p>第8回：講義 造血器腫瘍③、出血性疾患</p> <p>【坂本先生】</p> <p>第9回：講義 代謝・内分泌の基礎知識</p> <p>第10回：講義 下垂体・甲状腺疾患</p> <p>第11回：講義 副甲状腺・副腎疾患</p> <p>第12回：講義 糖尿病の基礎知識</p> <p>第13回：講義 糖尿病・症例検討</p> <p>【矢田貝先生】</p> <p>第14回：講義 皮膚のしくみ、発疹学について</p> <p>第15回：講義 皮膚疾患について</p>			講義形式(配布資料、視聴覚教材等)			
成 績 評 価	方法	筆記試験(配点は評価配分表を参照)、出席状況					
	基準	本校の基準に沿って評価する。					
専 前 課 題 ・ 留 意 点	事前課題						
	留意点	<p>この授業を通して、リウマチ疾患に対しておおまかなイメージと興味を持てるようになることを望みます。(金本)</p> <p>講義はスライドを中心に行います。あらかじめテキストを読んでから受講して頂くと、さらに理解しやすいと思います。(前田)</p> <p>White Boardを使った講義を少し入れます。配布したプリントへ要点を記入して下さい。(坂本)</p> <p>わからないところは質問して下さい。(矢田貝)</p>					
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [11]	アレルギー 膠原病 感染	医学書院			
		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [4]	血液・造血器	医学書院			
		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [6]	内分泌・代謝	医学書院			
		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [12]	皮膚	医学書院			
	必要物品						
考 考 文 献	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院						

授 業 概 要

科目名	疾病予防	担当者	杉渕美里 大石祐子	開講時期	1年次 後期	単位時間	15時間 /1単位
	ディプロマポリシーで目指す力	看護を実践する力	看護を探求する力				
学修内容	人々が暮らす地域や文化など、それぞれの生活の中で健康を守るために、疾病の1次予防における看護師の役割は大きい。日常生活の中でできる健康維持や疾病予防などの知識は、看護職が地域の方々に提供できる看護の一部である。そのために必要な知識や技術としてライフステージ各期の特徴的な健康問題とその要因・予防法を学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域社会で生活する人々の、疾病予防の必要性を理解する。 2. ライフステージ各期における特徴的な健康問題と、その要因・予防方法を探求する。 						
授業計画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1回：授業ガイダンス 日常生活における疾病の一次予防とは。 この科目におけるプロジェクト学習の進め方	（杉渕）				講義 冬期休暇中の課題提示	
	第2回：グループのビジョン・ゴール設定 グループワークの計画・立案	（杉渕）				各自の取り組みたいテーマをベースにグルーピングする。	
	第3回：グループごとの計画実施	（杉渕）				グループワーク	
	第4回：中間発表 「私たちがとらえた健康問題とその要因」	（大石）				とらえた健康問題を、生活の中で予防する必要性が伝わるように報告する。 メンバーによるGW参加度評価	
	第5回：個人のビジョン・ゴール設定	（大石）				講義	
	第6・7・8回（5時間）：凝縮ポートフォリオの発表	（大石）				凝縮PFの評価（教員・他者） グッツョブカードの記載	
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・事前ポートフォリオの提出・内容（10点） ・中間発表後の学び（振り返り）（5点） ・GWの参加状況（メンバーによる他者評価）15点 ・凝縮ポートフォリオとその発表（教員20点、他者10点） ・課題レポート「疾病を予防するために看護で大事なことは何か」（40点） 						
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の取り組みたいテーマ決めは、どのようなライフステージの人がどのような健康問題を起こしやすいか関心を持ち、情報収集するところから始まります。「地域・在宅看護論Ⅰ」のフィールドワーク・新聞等を活用していきましょう。 ・グループワークの際は、各領域の担当教員へ自分たちからアプローチし、アドバイスを受けてもよいでしょう。 ・看護者としての責任をもち、正しい根拠あるデータ・情報を検索し、活用していきましょう。 						
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 系統看護学講座 老年看護学, 医学書院 系統看護学講座 小児看護学概論・小児臨床総論, 医学書院 系統看護学講座 小児臨床看護各論, 医学書院 系統看護学講座 母性看護学概論, 医学書院 系統看護学講座 精神看護の基礎・精神看護の展開, 医学書院 系統看護学講座 成人看護学総論, 医学書院 						
物必装	<ul style="list-style-type: none"> ・その他 図書室などで文献を探ること。 ・クリアポケットファイル（A4サイズ、20枚程度）：ポートフォリオを作成する。 						

授 業 概 要

科目名	看護学概論Ⅰ	担当者	亀澤ますみ	開講時期	1年 前期	単位時間	25時間 /1単位
	ディプロマポリシーで目指す力		看護を実践する力				
学修内容	<p>看護とは何だろう。これは私たちにとって答えのない永遠の間かもしれません。定義や理論家たちの考えを学ぶことはできますが、看護の実践家にとっては学ぶことが目的ではありません。知識だけでなく、自分自身の感性で捉え、考え、自分たちで共有し合い、自己や他者、「人間」について理解を深め、自身の価値観の中に染み込ませていきます。それが思考や言動となって看護を行う土台になります。これまでの看護のあゆみと看護を取り巻くことについて学び、考え、看護学生としての自己を探求する。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者を見つめ、自己を見つめ学ぶ。「他者理解とは何か、自己理解とは何か」考える。 ・看護の歴史と変遷を学び、看護師に求められる姿勢を理解する。 ・看護師の専門職としての役割と責務を理解する。 ・看護の対象者である「人間」と主要概念について、他者と共に考え理解を深める。 ・「看護覚え書」や看護理論を基に、看護の原点と看護の思考に触れる。 						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	<ol style="list-style-type: none"> 1)看護学概論ガイダンス「看護師の世界へ！」 2)他己紹介 「他者とともに……、他者と自己」 3)看護の歴史と変遷（理論家とクリティカルシンキング） 4)ケアリングについて抄読会「患者さんの立場になって考えよう 5)ケアリングについて ケアする者に必要な力 6)看護の定義 「看護に求められる役割と機能、看護の質の保証について 7)看護の対象理解「人間にとって健康とは……」 8)健康とは 「健康の定義を作ってみよう」 9)看護の対象理解 「人間にとって環境とは……」 10)看護の対象理解 「人々にとって暮らしとは……」 11)看護の対象理解 「人間とは……」 12)人間と看護 「人間の定義と看護について考えてみよう」 13) 試験 	<ol style="list-style-type: none"> 1)他己紹介の準備開始 2)レポート提出① 3)保助看法を含む 4・5)文献を読み、患者、家族の思いに近づき、ケアリングについて考える。6)レポート提出② 7・8)健康とはどのような状態か？講義とグループワークから定義を作ってみよう。 10)スクラップ記事を参考に考える。 11・12)グループでプロジェクト学習に取り組もう！ レポート提出③ 					
成績評価	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">初回から継続して「看護覚え書」を読み、考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価 レポート①・②・③＋プロジェクト学習の他者評価＋ピア評価＋筆記試験の総合計で評価 ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 抄読会の資料は事前提示します。課題を踏まえて熟読しておくこと。 「暮らし」に関する資料をスクラップしておくこと。 「人間について」はプロジェクト学習のため、事前からのポートフォリオ作成が必須です。開講後説明する。 ・留意 						
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 看護学概論 医学書院 Florence Nightingale著 湯槇ます他訳「看護覚え書」現代社 鈴木敏江著「プロジェクト学習の基本と手法」教育出版 参考図書 東京医科大学看護専門学校編著「よくわかる看護者の倫理綱領」照林社 ・必要物品 						
参考文献							

授 業 概 要

科目名	看護学概論Ⅱ	担当者	亀澤ますみ	開講時期	1年後期	単位時間	時間 25 / 1単位
	ディプロマポリシーで目指す力		看護を実践する力				
学修内容	看護は、どうあるべきか理想的な目標に向かって考えることはとても楽しいことです。しかし、常に実践はリアルな現実の中での思考・判断・行動が必要です。変化する社会の中で、今求められている看護とはどのようなものか考え、その考え方と方法を学ぶ。また、様々な場において求められる専門職としての役割意識と倫理観について、多職種と連携・協働する現場(臨地)に触れながら、その意識をさらに深め明らかにする。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の成り立ちと人々の暮らしについて考え、看護に求められる役割を考える。 ・看護の提供の仕組みと多職種との連携について考え、協働の意識を学ぶ。 ・看護倫理を学び、看護師としての姿勢を理解する。 ・看護の専門性を学び、将来の自己像を考える。 ・医療安全の意識を学び、自己の行動意識を再確認する。 ・看護実践に必要な力について、意見交換し自己の看護観を明確にする。 						
授業計画	授業テーマ						方法 (形成評価等を含む)
	1)看護の対象「社会・人々の暮らし・対象者と家族」について考える	1)レポート提出①					
	2)看護の場と継続、連携						
	3)看護の提供のしくみ	2・3・4)レポート提出②					
	4)看護提供のしくみについて考える 「連携と協働のためには…」						
	5)看護倫理について考える 「看護師の権限と責務」	5・6)看護の倫理綱領を使用					
	6)看護倫理について、 症例から学ぶ「状況判断と優先順位」	レポート提出③					
	7)看護の提供者としての専門性 (看護師の思考、クリティカルシンキング)	7・8)レポート提出④					
	8)看護の提供者 専門職としてのキャリアアップ(国際看護・災害看護を含む)						
	9)看護の安全と事故防止①(権利保護、プライバシー保護を含む)	9・10)看護の倫理綱領を使用					
	10)看護の安全と事故防止②・・・1時間のみ						
	11)看護実践に必要な力とは何か ラベルワーク	11・12・13)ラベルワーク					
	12)看護実践に必要な力とは何か ラベルワーク	他者評価・ピア評価					
	13)看護実践に必要な力とは何か 発表	レポート提出⑤					
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 レポート①・②・③・④・⑤+ラベルワーク評価 ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 「暮らし」に関するスクラップ、地域・在宅看護のフィールドワークの学びを整理しておくこと。 ・留意点 						
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 看護学概論 医学書院 Florence Nightingale著 湯嶺ます他訳「看護覚え書」現代社 ・参考図書 東京医科大学看護専門学校編著 「よくわかる看護者の倫理綱領」 照林社 ・必要物品 						
参考文献	未定						

授 業 概 要

科目名	看護方法Ⅰ 生活援助技術 環境の調整	担当者	西川 はるみ	開講時期	1年次 前期	単位時間	12/30時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力					
学修内容	人と環境は密接な関係にあり、環境の善し悪しは健康の保持増進に大きく影響する。患者にとっての病室は、治療・看護を受ける場であるとともに日常生活の場となる。この单元では、人間にとっての環境の意義を考えるとともに、療養生活にある患者の環境とはどのようなものであるかを考え、看護者が行う環境の調整とはどのようにしていくことなのかを学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間にとっての環境の意義を理解する。 2. 療養者にとって快適な療養環境であることの意義と方法について理解する。 3. ベッドメイキングの原則を理解し、快適なベッドをつくる。 4. 安全・安楽を考慮した臥床患者のシーツ交換を実施する。 5. 看護者が環境を調整する意義について理解する。 <p>卒業時の技術到達レベル： 1.環境整備, 2.臥床患者のリネン交換, 65.安全な療養環境の整備は単独で実施できる</p>						
授業計画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1回： 人間にとっての環境の意義と療養環境 第2回： ベッド周りの環境を考える（環境整備） *演習はシミュレーションの手法を用いて、学生自身でベッド周囲の環境を考える 第3回： ベッドメイキング 第4・5回： 臥床患者のリネン交換 第6回： 安全な療養環境の整備						講義 講義・演習 校内演習(A/Bグループに分かれる) 校内演習(A/Bグループに分かれる) 校内演習(ABグループ合同) シミュレーションの手法を用いて、学生自身でベッド周囲の環境を考え、患者の安全を意識した療養環境を実施する
成績評価	方法	筆記試験	取り組み姿勢(出席・課題の成果)				
※環境の調整の配点は30点、「活動・休息」「栄養」と合わせて100点満点となります。							
事前課題・留意点	事前課題	校内実習前に、実施する看護技術についての課題があります。校内実習前は必ず実施する技術の動画を確認しましょう。					
	留意点	毎回の講義終了後、講義内容と関連する箇所のテキストを読み、理解を深めてください。 校内実習は、事前課題を活用して実施します。 校内実習後には、主体的に練習をしましょう。 ※ベッドメイキングは後日チェックリストで技術習得を確認します					
テキスト・必要物品	テキスト	・任 和子他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院。 ・藤本真記子他監修：看護がみえる vol. 1 基礎看護技術, メディックメディア。					
	必要物品	校内実習ごとに、必要物品をお知らせします。					
参考文献							

授 業 概 要

科目名	看護方法Ⅰ 生活援助技術 活動と休息	担当者	片山 聖治	開講時期	1年次前期	単位時間	12/30時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力					
学修内容	人間は成長と共に生活が自立する。自らの生活や欲求に応じて、自然に体を動かし活動している。活動は意識的にも無意識的にも行われるが、同様に休養や睡眠も必要となる。しかし、疾病や治療により活動も睡眠も様々な影響を受ける。そして、過度の安静は悪影響にもなる。本単元では活動と休息を必要に応じてバランスよく安全に提供する援助方法を学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 活動・休息の基礎的概念を理解する。 2. 姿勢の保持、体位変換、移動の援助の目的と援助方法を理解する。 3. 姿勢の保持、体位変換、移動の基礎的技術を実施する。 4. 活動の減少や不動状態による危険や合併症を理解する。 5. 睡眠の基礎知識とその援助について理解する。 <p style="text-align: center;">卒業時の技術到達レベル：13.車いすでの移送、15.移乗介助、体位変換・保持、16.体位変換・保持、69.安楽な体位の調整は単独でできる</p>						
授業計画	授業テーマ	方法（形成評価等を含む）					
成績評価	<p>第1回：活動休息の意義と基礎知識</p> <p>第2回：安楽な体位の調整(ボディメカニクス・不動状態)</p> <p>第3回：安楽な体位の調整(体位変換・ポジショニング)</p> <p>第4回：移乗と移動、移送の基礎知識</p> <p>第5回：移乗と移動、移送の援助（車椅子・ストレッチャー）</p> <p>第6回：睡眠障害とその援助 試験</p>						
事前課題・留意点	<p>・方法 筆記試験：40点、「環境の調整」「食事の援助」と合わせて100点になります。</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>						
テキスト・必要物品	<p>・事前課題 講義時に話し合いをします。テーマに基づき自己学習をして臨んでください。 毎回の校内実習前に、実施する看護技術に関して事前課題があります。</p> <p>・留意点 活動と休息は患者さんは勿論、看護する者にとっても自らの安全を守る重要な基礎です。 形態機能学の骨格筋の仕組みなども踏まえて学びましょう。 ※車椅子移乗介助は後日チェックリストで技術習得を確認します。</p>						
参考文献	<p>・テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・任 和子他著：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ，医学書院。 ・藤本真記子他監修：看護がみえる vol.1 基礎看護技術，メディックメディア。 ・織田弘美ほか：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔10〕 運動器，医学書院。 <p>・必要物品 校内実習毎お知らせします。</p>						
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・竹尾恵子監修：看護技術プラクティス 第3版，学研メディカル秀潤社。 ・任 和子、秋山智弥編集：根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術，医学書院。 						

授 業 概 要

科 目 名	看護方法Ⅰ 生活援助技術 基本的な食事援助	担 当 者	後藤治美	開 講 時 期	1年次前期	単 位 時 間	6/30時間 1単位
	ディプロマポリシーで目指す力	実践する力					
学 修 内 容	看護の機能として、日常生活の支援は患者の生理的ニーズやQOLの観点からも重要である。そのため物理学、形態機能学Ⅰと病態生理治療論Ⅰ・Ⅱと運動、関連させながら、日常生活援助技術について基礎的な知識と援助方法について学ぶ。この単位では、人間にとって食べることの意義を理解し、栄養に関する身体的側面の観察の視点、療養における食事とはどのようなものかについて学ぶ。そして、栄養が満たされないことによって起こる身体的・心理的問題、およびその問題に対する基本的看護援助について学ぶ。						
到 達 目 標	1)人間にとって食べることの意義を、生理的、心理的、社会的側面から理解する。 2)食事の援助に必要な栄養の基礎知識、食事摂取の機序を理解する。 3)対象の栄養状態および食欲、摂取能力のアセスメントの方法を理解する 4)栄養のニーズを満たすために必要な看護援助を学び、基本的な食事援助ができる。 卒業時の技術到達レベル:3.食事介助(嚥下障害を除く)単独で実施できる						
授 業 計 画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回:事例をもとに栄養状態、食行動のアセスメントをしてみよう			事例をもとに患者さんの栄養状態、食行動についてアセスメントする。 校内演習(A/Bグループで分かれる)形態機能学Ⅰの知識を活用し、患者にとって安全で安楽な食事援助を実施する。事前に、援助計画を立案し、実際の食事摂取を患者役、看護師役の両方を体験する。			
	第2回:基本的な食事援助と嚥下訓練について学ぼう						
第3回:基本的な食事の援助を体験しよう							
成 績 評 価	・方法 配点:30点 筆記試験、演習の取り組み姿勢で評価します。 「環境の調整」「活動と休息」と合わせて100点になります。 ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題 授業前に課題提示するのでこれまでの学習を活用して取り組むこと。 ・留意点 形態機能学Ⅰの内容を復習して臨むこと。 食事の援助は、臨地実習で体験することが多い技術であるため、実際の状況をイメージしながら学習していく。						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト 任 和子他著: 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 藤本真記子他監修: 看護がみえる Vol1 Vol2臨床看護技術、メディックメディア。 江口正信著: 検査値早わかりガイド, サイオ出版。 ・必要物品 授業前に提示する。						
参 考 文 献							

授 業 概 要

科目名	看護方法Ⅱ 生活援助技術 排泄(床上排泄)	担当者	大石 祐子	開講時期	1年次 前期	単位時期	8/30時間 1単位
	ディプロマポリシーで目指す力		実践する力				
学修内容	人間は水や食物などを身体に取り込み、生命維持に必要なエネルギーを産生する一方、その過程で生成される不要な代謝産物を排出する。この過程を「排泄」という。本科目では、人間にとって生理的欲求の一つである排泄の意義とそのメカニズムを理解し、日常生活行動の一つである排泄行動を意識しながら、排泄に関する観察の視点について考えていく。また、排泄に関し看護者が行う援助方法および看護、排泄困難な状況における援助方法および看護について学んでいく。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の健康生活における排泄の生理的・心理的・社会的意義を理解する。 2. 基礎的知識として、排泄の機序および生理的機能を理解する。 3. 排泄援助に伴う患者の心理・苦痛を理解する。 4. 排泄障害の様々な段階を知り、適切な援助方法を理解する。 5. 排泄行動に障害がある人に対する基本的援助技術を理解する。 6. 安全・安楽を考慮しながら、基本的な床上排泄の援助ができる。 卒業時の技術到達レベル:7.排泄援助は単独で実施できる						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回:排泄の意義と基礎知識			講義			
	第2回:排泄援助の基礎知識、床上排泄の看護			講義			
	第3・4回:床上排泄の援助(尿器・便器)			校内演習(A・Bグループに分かれる)			
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験30点 出席状況・授業の取り組み姿勢・課題10点 合計40点 「清潔・衣生活の援助」と合わせて100点になります。 ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 形態機能学Ⅱ「尿を生成するしくみ」、形態機能学Ⅰ「消化・吸収のしくみ」を復習しておいてください。 ・留意点 演習前は課題を提示します。演習は課題を活用しながら行うので、しっかり取り組み演習に臨みましょう。提出課題も評価対象としますので、得点は成績評点に加点します。予習・復習をし、積極的に学習しましょう。 						
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 任 和子他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 医学書院 藤本真記子他監修：看護がみえるvol.1 基礎看護技術 メディックメディア ・必要物品 演習時はユニフォーム等、事前に提示します。 						
参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8]腎・泌尿器 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5]消化器 医学書院 増田敦子他：解剖生理をおもしろく学ぶ サイオ出版						

授 業 概 要

科目名	看護方法Ⅱ 生活援助技術 清潔・衣生活の援助	担当者	寶石 江里子 橋本 圭子	年次	1年次 前期	時間 単位	22/30時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力					
学修内容	人にとって、「清潔を保つ」「身だしなみを整える」ことの意義を学ぶ。さらに、体を守る機能の一つである皮膚・粘膜に働きかけ、防御機構を促進するための看護援助の具体的な方法・技術を学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.人の清潔保持行動の重要性を理解する。 2.清潔の援助の効果と全身への影響を理解する。 3.清潔の援助を実施する上での原則・留意点を理解する。 4.身体各部の構造や機能に応じた援助の方法を理解する。 5.患者および看護師にとって安全で安楽な清潔を保持するための看護援助技術を身につける。 <p style="text-align: center;">卒業時の技術到達レベル：19.足浴, 20.整容, 21.点滴・ドレーン等を留置していない患者の寝衣交換, 23.陰部の保洁, 24.清拭, 25.洗髪, 26.口腔ケアは単独で実施できる</p>						
授業計画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
第1回	人にとっての清潔を保つことの意義				(寶石)	講義	
第2回	口腔の清潔を保つ目的と援助方法				(寶石)	講義	
第3回	口腔ケアの実際				(寶石)	校内演習(A/Bグループで分かれる)	
第4回	部分浴の目的と援助方法				(橋本)	講義	
第5回	足浴の実際				(橋本)	校内演習(A/Bグループで分かれる)	
第6回	部分浴(洗髪)の目的と援助				(橋本)	講義	
第7回	洗髪の実際(整容を含む)				(橋本)	校内演習(A/Bグループで分かれる)	
第8回	全身清拭・寝衣交換の目的と援助方法				(寶石)	講義	
第9・10回	全身清拭(陰部を含む)・寝衣交換の実際 *寝衣交換は点滴・ドレーン等なし				(寶石)	校内演習(A/Bグループで分かれる)	
第11回	試験				(寶石)	筆記試験	
成績評価	<p>・方法 配点:60点(寶石40点、橋本20点)、「排泄援助技術」と併せて評価点(100点満点)と筆記試験、事前課題、授業への取り組み姿勢、提出物の提出状況、内容により評価</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>						
事前課題・留意点	<p>・事前課題 演習前は課題を提示します。演習は課題を活用しながら行うので、しっかり取り組み演習に臨みましょう。</p> <p>・留意点 点滴・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換については、臨床判断Ⅱの校内演習で実施する。 ※全身清拭(陰部清拭除く)は後日チェックリストで技術習得を確認します。</p>						
テキスト・必要物品	<p>・テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術, 医学書院. ・藤本真記子ら監修: 看護がみえる vol.1 基礎看護技術, メディックメディア. <p>・必要物品 校内実習ごとに、必要物品をお知らせします。</p>						
参考文献							

授 業 概 要

科目名	看護方法Ⅲ フィジカルアセスメント	担当者	片山 聖治 橋本 圭子	年次	1年次 後期	単位時間	30時間 1単位
	ディプロマポリシーで目指す力	実践する力					
学修内容	看護では患者を正しく診ることが大切であり、そのためにはコミュニケーションを土台にしたフィジカルアセスメントの技術が重要である。臨床判断能力の基礎として、全身状態を系統的に診ていき、そこから対象に起こっている身体状態を把握し、その把握した情報の意味(正常・異常)を判断する知識と技術を身に付ける。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. フィジカルアセスメントの意義と必要性を理解する。 2. 身体構造、機能の正常を意識して系統別フィジカルイグザミネーションの基本技術を実施する。 3. 原理原則を踏まえてバイタルサインを正確に測定する。 <p style="text-align: center;">卒業時の技術到達レベル: 50.バイタルサイン測定(BT・P・R), 52.フィジカルアセスメント, 59.使用した器具の感染防止の取扱いが単独で実施できる</p>						
授業計画	授業テーマ					方法(形成評価等を含む)	
第1回	フィジカルアセスメント総論 基本的フィジカルイグザミネーション			(橋本)	講義		
第2回	バイタルサインの意義と必要性 体温について			(橋本)	講義		
第3～6回	循環器系・呼吸器系のアセスメント 脈拍・呼吸音・血圧・心音について			(橋本)	講義・実技		
第7・8回	状態の観察とバイタルサイン測定			(橋本)	校内演習(A/B分かれる)		
第9回	消化器系のアセスメントの実際			(橋本)	講義・実技		
第10回	筋・骨格系のアセスメント			(片山)	講義		
第11・12回	脳・神経系のアセスメント			(片山)	講義		
第13・14回	筋・骨格系、脳・神経系のアセスメントの実際			(片山)	校内演習(A/B分かれる)		
第15回	試験			(橋本)			
成績評価	<p>・方法 筆記試験 ・ 取り組み姿勢 (評価の点数配分は橋本60点, 片山40点になります)</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>						
事前課題・留意点	<p>・事前課題</p> <p>・留意点 ※バイタルサイン測定は後日チェックリストで技術習得を確認します</p>						
テキスト・必要物品参考文献	<p>・テキスト</p> <p>・系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 医学書院</p> <p>・熊谷たまき他監修:看護が見えるvo.3 フィジカルアセスメント メディックメディア</p> <p>・必要物品 血圧計・聴診器・秒針付腕時計</p>						

授 業 概 要

科目名	看護方法Ⅳ 共通技術 感染予防	担当者	安達 百合 小島 太	開講時期	1年次 前期	単位時間	12/30時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力					
学修内容	感染に関する基礎知識を微生物学と生物学とを結びつけながら、感染予防の知識や技術を学ぶ。医療施設内で求められている感染予防は、患者や医療者自身の安全を守るため、正しい知識を習得し確実な実践が求められる重要性について理解する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護師が行う感染予防のために基礎知識や技術を理解する。 2. 医療施設で患者や医療従事者及び職員の安全を守る感染予防の意義や知識を活用した技術を体験し習得する。 3. 病院で行われている感染予防対策を知り、基礎知識や技術の確実な実施の必要を理解し実施する。 <p>卒業時の技術到達レベル：36.創傷処置、57.スタンダードプリコーションに基づく手洗い、58.必要な防護用具（手袋、ガウン等）の選択・着脱、59.使用した器具の感染防止の取扱い、60.感染性廃棄物の取扱いが単独で実施できる</p>						
授業計画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1回：感染防止の基礎知識（安達）						講義
	第2回：標準感染予防対策（安達）						講義
	第3回：標準感染予防対策（安達）						校内演習
	・スタンダードプリコーション：個人防護具の装着と衛生的手洗い						
	第4回：感染予防対策の基本（小島）						
	第5回：感染経路別感染予防対策（安達）						校内演習（A/Bグループ）
	・ガウンテクニック						
	第6回：感染予防対策 滅菌物の取り扱いと創傷処置（安達）						校内演習（A/Bグループ）
	・滅菌物の取り扱い						
	・創傷処置						
	・感染性廃棄物の取り扱い						
成績評価	<p>・方法 筆記試験：40点</p> <p>※感染予防は「コミュニケーション」「与薬」「記録・報告」「指導技術」と合わせて100点満点となります。</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>						
事前課題・留意点	<p>・事前課題 感染予防知識について事前学習があります。グループワークや校内実習前に事前学習があります。</p> <p>・留意点 医療従事者を目指すものとして、清潔や汚染について判断できるように考えながら授業に望んで下さい。 ※看護方法Ⅳの科目がすべて終了した後に、「コミュニケーション」「感染予防」「与薬」については筆記試験があります。</p>						
テキスト・必要物品	<p>・テキスト 系統看護学講座 専門分野1 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院</p> <p>・必要物品 校内実習前に説明された物品を各自で事前準備する</p>						
参考文献	<p>日本看護協会教育委員会監修：看護場面における感染防止 インターメディカ</p> <p>藤本真紀子他監修：看護が見える vol.1 基礎看護技術 第1版 メディックメディア</p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進④ 微生物学 医学書院</p>						

授 業 概 要

科目名	看護方法Ⅳ (与薬)	担当者	柳原 泰子	開講時期	1年次 後期	単位時間	6/30時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力					
学修内容	看護のあらゆる場で必要となる共通技術の一つに、与薬がある。本単元では、診療補助技術の中でも、身体侵襲のない薬物療法を実施する際に必要となる基礎知識と、看護師の役割を学ぶ。治療の一つである薬物治療は、医療の中で大きな役割を占めており、薬物の管理・与薬の実施・治療環境を整えるなど、看護師が果たす役割は大きい。演習では、与薬の中でも看護師が特に実施する機会の多い「与薬」について、基本となる知識、確実な技術を学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物療法における看護師の役割を理解する。 2. 与薬(薬剤管理を含む)に関する基礎知識を理解する。 3. 与薬の基本的な方法と看護の要点を理解する。 4. 患者の安全・安楽に配慮した「経口与薬」「経皮・外用薬」とそれに伴う薬剤管理について、基本となる知識、確実な技術を学ぶ。 <p>卒業時の技術到達レベル 単独でできる:39.経皮・外用薬の投与、64.患者の誤認防止策の実施 指導の下で実施できる:38.経口与薬(パッカル錠・内服薬・舌下薬)の投与、45.薬剤等の管理</p>						
授業項目	授業テーマ	方法(形成評価等を含む)					
第1回	診療における看護	講義					
第2回	与薬における看護・薬剤の管理方法	講義					
第3回	内用薬・経口薬の与薬、経皮・外用薬の与薬 ・誤認防止策の実施 ・内用薬(錠剤/散剤/水剤)の与薬 ・経口薬(パッカル錠、内服薬、舌下錠)の与薬 ・経皮・外用薬(麻薬)の投与 ・薬剤の管理方法(麻薬)	校内演習(A/Bグループ)					
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験25点 出席状況・授業の取組み姿勢・課題5点 合計30点 ※与薬は「コミュニケーション」「感染予防」「記録・報告」「指導技術」と合わせ100点満点になる。 ・基準 本校の基準に沿って評価する 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 校内演習を安全に行うために必要な知識、技術についての課題を、その都度提示します。 ・留意点 校内演習はユニフォーム・患者衣へ更衣します。 校内演習は事前課題を活用しながら行うため、しっかり取り組み演習に臨みましょう。 提出課題も評価対象としますので、得点は成績評点に加点します。 予習・復習をし、積極的に学習しましょう。 自身や家族などの内服薬があれば、日頃から興味関心を持ち調べてみましょう。 ※ 看護方法Ⅳの科目がすべて終了した後に、「コミュニケーション」「感染予防」「与薬」については筆記試験があります。 						
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 茂野香おる他:系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ 医学書院 任 和子他:系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 医学書院 藤本真記子他監修:看護がみえるvol.1 基礎看護技術 メディックメディア 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[3] 薬理学 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床薬理学 医学書院 ・必要物品 看護技術セット内の物品、各自サイズのディスポーザブル手袋、患者衣、フェイスタオル、入学時に配布した名札 						
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち② 臨床薬理学 メディカ出版 ナーシング・サプリ イメージできる臨床薬理学 メディカ出版 						

授 業 概 要

科目名	看護方法Ⅳ 共通技術 コミュニケーション	担当者	後藤 治美	開講時期	1年次 後期	単位時間	8/30時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力					
学修内容	<p>人は、互いの気持ちを伝えあい理解し合う際、情報交換や意思疎通をしながら人間関係を成立させて暮らしている。しかし、生理的な変化や健康障害により今までのようなコミュニケーションが困難になることもある。看護師は、直接的・間接的に人に関わり、安心して過ごせるように配慮したコミュニケーションを行う。また、患者家族の意思を支え関り、希望する生活へと支援する役割がある。コミュニケーションは看護においても相手を理解し、信頼関係を確立し深めていくために必要不可欠な技術である。この単元では、コミュニケーションの基本的概念をもとに、看護場面のなかでのコミュニケーションのあり方を学び体験を通して学び、習得を目指す。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 普段のコミュニケーション(意義・種類・構成要素・過程)を想起し、影響などについて自身の関りや体験から理解する。 2. 患者と看護師の信頼関係を深めるため、必要な原則や留意点を踏まえたコミュニケーションを理解する。 3. コミュニケーションの場面を体験し、自分自身の関わりについて振り返り学ぶ。 						
授業計画	授業テーマ				方法 (形成評価等を含む)		
	第1回: コミュニケーションの意義と人間関係への影響				講義・グループワーク		
	第2回: 看護場面におけるコミュニケーションの重要性を考える				講義・グループワーク		
	第3回: 効果的なコミュニケーションの実際				校内演習(A・Bグループ別)		
	第4回: 効果的なコミュニケーションの実際				講義・グループ		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験: 15点 ※コミュニケーションは「感染予防」「与薬」「記録・報告」「指導技術」と合わせて100点満点となります。 ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 ・テキストの「コミュニケーション」の内容を読み授業に出席してください。 ・留意点 ・日常とは異なり、看護師として行うコミュニケーションの意義を理解して実習の中で活用し下さい。自分自身のコミュニケーションを振り返り、相手の意図を感じる力、相手に必要とされる内容や自分の気持ちを伝える力を理解して看護実践力につなげられるように考え身につけていきましょう。 ※看護方法Ⅳの科目がすべて終了した後に、「コミュニケーション」「感染予防」「与薬」については筆記試験があります。 						
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト ・系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 ・アーネスティン・ウィーデンバック コミュニケーション 効果的な看護を展開する鍵 日本看護協会出版 ・必要物品 						
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 人間関係論 医学書院 ・長谷川雅美他 編 「自己理解・他者理解を深めるコミュニケーションの上手な取り方」 日総研 ・福沢周亮、桜井俊子 編 「看護コミュニケーション」 教育出版 						

授 業 概 要

科目名	看護方法Ⅳ 共通技術 「記録・報告」「指導技術」	担当者	實石 江里子	開講時期	1年次 後期	単位時間	4/30時間 1単位
	ディプロマポリシーで目指す力		実践する力				
学修内容	看護のあらゆる場面で必要となる共通技術の一つとして、記録・報告がある。記録・報告は看護の継続やチームナーシングにおける基本となる。この技術は1年次の臨地実習の初期段階から必要となるため、授業を通して記録・報告の知識を学び、その重要性を理解する。また、看護の場面では、退院支援として対象に教育的に関わることがたびたびある。そのため、学習支援の意義と役割を学び、今後の指導につながっていく。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護における記録・報告の重要性を理解する。 2. 看護における学習支援の意義と看護師の役割を理解する。 						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回	看護における記録・報告 演習：記録と報告の実際		講義・演習			
	第2回	看護における学習支援の意義と看護師の役割		講義 演習：グループワーク、発表			
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 配点：課題・取り組み姿勢(15点) ※コミュニケーションは「感染予防」「与薬」「記録・報告」「指導技術」と合わせて100点満点となります。 ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 ・留意点 ※看護方法Ⅳの科目がすべて終了した後に、「コミュニケーション」「感染予防」「与薬」については筆記試験があります。 						
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 ・必要物品 						
参考文献							

授 業 概 要

科目名	看護方法 V 看護の思考	担当者	西川 はるみ	開講時期	1年次 後期	単位時間	30/30時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力					
学修内容	看護に必要な思考過程は、看護の目標を達成するための方法論の一つである。つまり、看護の対象となるその人にとって必要な援助を見極め、その人らしく生活できるよう支援していくための方法である。看護の思考を学ぶ過程は、看護の対象となる人々と看護実践者との対人関係の中で成立し、展開するものである。すなわち、看護の思考過程は、対人的援助関係の過程を基盤として、看護の目標を達成するための科学的な問題解決法を応用した思考過程の道筋である。看護の思考を身につけるために、問題解決思考、クリティカルシンキング、倫理的配慮、リフレクションなどを基盤として、既習の知識を活用することが必要となる。この単元では、演習を通して基本的な看護の思考過程を学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程を構成する要素とそのプロセス、また看護過程を用いることの意義を理解する。 2. 問題解決過程やクリティカルシンキング、倫理的配慮など看護過程の基盤となる考え方を理解する。 3. 事例を使って、看護過程展開に取り組み、看護の思考方法を身につける。 4. 看護過程の各段階であるアセスメント(全体像・関連図・分析)、看護問題の明確化、看護計画、実施、評価の基本的な考え方とその実際を学ぶ。 						
授業テーマ				方法(形成評価等を含む)			
授業計画	第1回: 看護過程の概要、看護過程の基盤となる考え方			講義			
	第2回: ゴードンの枠組みを使った看護過程について理解を深めよう!			講義・グループワーク			
	第3回: 看護問題って何?			講義・グループワーク			
	第4回: 事例の疾患と治療について理解を深めよう!			講義・グループワーク			
	第5回: 情報収集について考えてみよう! 1回目			講義・グループワーク			
	第6回: 情報収集について考えてみよう! 2回目			講義・グループワーク			
	第7回: 必要な情報を整理してみよう!			講義・グループワーク			
	第8回: 情報のアセスメントをしてみよう! 1回目			講義・グループワーク			
	第9回: 情報のアセスメントをしてみよう! 2回目			講義・グループワーク			
	第10回: 看護問題を抽出し患者の問題を明確化しよう!			講義・グループワーク			
	第11回: 看護問題の整理・統合を行い、優先順位を考えよう!			講義・グループワーク			
	第12回: 患者の長期目標・短期目標・看護計画を考えよう!			講義・グループワーク			
	第13回: 個別性のある看護計画を考えよう!			講義・グループワーク			
	第14回: 看護計画の実施から、評価、計画の修正をしよう!			講義・グループワーク			
	第15回: 試験・解説			筆記試験・講義			
成績評価	・方法:筆記試験:50%, 看護過程展開の成果物と取り組み姿勢の評価:50%						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題:その都度指示を出します。 ・留意点:毎回の講義終了後、講義内容と関連する箇所のテキストを読み、理解を深めてください。 						
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト・茂野香おる他: 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学② 基礎看護技術 I, 医学書院. ・香春知永他: 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学④ 臨床看護総論, 医学書院. ・高木永子他: 看護過程に沿った対症看護, 学研プラス. 						

授 業 概 要

科目名	看護方法VI 診療補助技術 臨床栄養	担当者	久保田 美保子	開講時期	2年次前期	単位時間	8/30時間 /1単位
	ディプロマポリシーで目指す力		看護を実践する力				
学修内容	臨床場面で多用される診療補助技術のうち、身体侵襲を伴い安全面の配慮が必要な技術については、根拠に基づき臨床を想定しながらモデル人形などを活用しながら臨床の場で使用される物品に近い形で代用しながら学んでいく。校内実習では安全面や倫理面に十分配慮し学ぶようにする。この単元では、臨床栄養学の基礎的な知識を習得し、疾病の治療や予防における栄養食事療法の意義、栄養状態に応じた栄養管理について学習する。						
到達目標	①臨床栄養学の基礎的な知識を習得し、疾病に応じて必要な栄養食事療法を説明できる。 ②栄養状態の評価および栄養状態の改善に必要な栄養管理について理解する。						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回：内分泌・代謝疾患の栄養管理 第2回：循環器系疾患、慢性腎臓病の栄養管理 第3回：消化器系疾患の栄養管理 第4回：周術期の栄養管理			講義 講義 講義 講義			
成績評価	・方法 筆記試験(評価配分表を参照)、授業への取り組み姿勢 ・基準 本校の基準に沿って評価する						
事前課題・留意点	・事前課題 授業前にテキストを一読しておくことを勧める。 ・留意点						
テキスト・必要物品	・テキスト ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち「臨床栄養学」 八訂準拠 ビジュアル食品成分表 糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版 ・必要物品 授業前に提示する。			メディカ出版 大修館書店 日本糖尿病学会			
参考文献							

授 業 概 要

科目名	看護方法Ⅵ 診療補助技術 経管栄養	担当者	柳原 泰子	開講時期	2年次前期	単位時間	6/30時間 /1単位
	ディプロマポリシーで目指す力	実践する力					
学修内容	臨床場面で多用される診療補助技術のうち、身体侵襲を伴い安全面の配慮が必要な技術については、根拠に基づき臨床を想定しながらモデル人形などを活用しながら臨床の場で使用される物品に近い形で代用しながら学んでいく。校内実習では安全面や倫理面に十分配慮し学ぶようにする。この単元では、栄養が満たされないことによって起こる身体的・心理的問題、およびその問題に対する基本的看護援助について学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食物を経口摂取できない状態にある対象の栄養摂取の必要性と方法を学ぶ。 2. 非経口的栄養摂取法である経鼻経管栄養法の具体的な方法と観察を学ぶと共に、そのような方法で栄養摂取をする対象の身体的、心理的苦痛を理解できる。 3. 安全・安楽に留意した経管栄養法の挿入と注入ができる 卒業時の技術到達レベル 指導の下で実施できる:5.経管栄養法による流動食の注入、実施困難な場合は見学する:6.経鼻胃チューブの挿入						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回 経口摂取ができない人への援助	第2・3回 経鼻経管栄養法 ・経鼻胃チューブの挿入 ・経管栄養法による流動食の注入		第1回 講義 第2, 3回 形態機能学Ⅰ、看護方法Ⅰ「基本的な食事援助」の知識を活用し、経鼻経管栄養法を実施する。事前に、援助計画を立案し、安全、安楽に実施するための方法を計画したうえで、患者役、看護師役の両方を体験する。 ※A,Bグループで分かれて演習			
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験(20点分)、事前学習、演習の取り組み姿勢 ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 授業前に課題提示するのでこれまでの学習を活用して取り組むこと。 ・留意点 形態機能学Ⅰ、看護方法Ⅰ「基本的な食事援助」の内容を復習して臨むこと。 経管栄養法は、臨床実習で体験することが多い技術であるため、実際の状況をイメージしながら学習していく。 						
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 任 和子他著：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 藤本真記子他監修：看護がみえる Vol1 ,Vol2臨床看護技術、メディックメディア。 江口正信著：検査値早わかりガイド、サイオ出版。 ・必要物品 授業前に提示する。 						
参考文献							

授 業 概 要

科目名	看護方法Ⅵ診療補助技術 浣腸・導尿・坐薬	担当者	増田 瑞枝	開講時期	2年次 前期	単位時間	12/30時間 単位
	ディプロマポリシーで目指す力		実践する力				
学修内容	<p>本科目は、診療補助技術に含まれ、身体侵襲を伴う技術である。学生には安全に配慮した援助を実施するために、1年次の形態機能学の知識に基づき、技術の適応や禁忌について理解した上で、原理・原則に留意した技術を身につける。また、これらの技術は羞恥心を伴うため、患者の心理面を理解した上でどのような看護ういようか考え、実施できるようにする。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の状態の理解から、状況に合わせた援助方法を理解する。 2. 各技術でされる援助の目的、原理・原則を理解する。 3. 安全・安楽に留意した援助(膀胱留置カテーテル)の挿入と管理方法が理解できる。 4. 安全・安楽に留意した援助(坐薬の挿入・グリセリン浣腸)の実施ができる。 5. 身体侵襲を伴う患者の心理を理解し、必要な看護について考える。 <p>卒業時の技術到達レベル 指導の下で実施できる:8.膀胱留置カテーテルの管理,9.導尿または膀胱留置カテーテルの挿入,10.浣腸 40.坐薬の投与</p>						
授業計画	授業テーマ				方法 (形成評価等を含む)		
	第1回 排便困難時の看護			講義			
	第2・3回 座薬・浣腸の実施と床上排泄の援助			演習(A・Bグループ別)			
	第4回 排尿困難時の看護			講義			
	第5・6回 一時的導尿・膀胱留置カテーテルの挿入と管理方法			演習(A・Bグループ別)			
成績評価	<p>・方法 筆記試験25点 演習後の提出物(5点/回 計10点) (看護方法Ⅵのうち35点分の配点) 出席状況・授業の取り組み姿勢</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>						
事前課題・留意点	<p>・事前課題:各演習前には課題を提示します。演習は課題をもとに行います。主体的に臨みましょう。</p> <p>・留意点 :1年次の形態機能学Ⅱ「排尿のメカニズム」、看護方法Ⅱ「排泄」の講義内容をしっかり振提出課題も評価対象としますので、得点は成績評点に加点します。 予習・復習をし、積極的に学習しましょう。</p>						
テキスト・必要物品	<p>・テキスト 任 和子他:系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 医学書院 藤本真記子他監修:看護がみえるvol.1 基礎看護技術 メディックメディア 近藤一郎他監修:看護がみえるvol.2 基礎看護技術 メディックメディア 増田敦子他:解剖生理をおもしろく学ぶ サイオ出版</p> <p>・必要物品 演習時はユニフォーム等、事前に提示します。</p>						
参考文献	<p>・系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学 医学書院 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8]腎・泌尿器 医学書院 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5]消化器 医学書院 ・系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[2]病態生理学 医学書院</p>						

授 業 概 要

科目名	看護方法Ⅵ 診療補助技術 無菌操作	担当者	石間 香里	開講時期	2年前期	単位時間	4/30時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力					
学修内容	無菌操作は、患者の体内に病原微生物が侵入するのを防ぐため、滅菌された物品の滅菌状態を保ちながら取り扱う。臨床で滅菌物を取り出し患者へ使用する時は、確実に無菌操作を行うことが必要であり、清潔と汚染を厳重に区別することが重要である。身体侵襲を伴い安全面の配慮を必要とするため、安全面だけではなく、倫理面への配慮を学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 無菌操作の原理原則を理解する。 2. 原理原則に基づいて無菌的に物品を取り扱うことができる。 3. 医療物品の取り扱いでの倫理的配慮の必要性を認識する。 <p>卒業時の技術到達レベル 指導の下で実施できる:58.使用した器具の感染防止の取り扱い, 60.無菌操作</p>						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回 無菌操作の実際 第2回 無菌操作 ・滅菌包とその取扱い ・滅菌包			講義 校内演習(A・Bグループ別)			
成績評価	・方法 筆記試験 ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題 事前に留意点や方法を自己学習してください。(用紙や詳細は後日お知らせします。) ・留意点 ・感染予防の視点から身支度は適切に整えて出席してください。						
テキスト・必要物品	・テキスト ・系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ ・必要物品						
参考文献							

授 業 概 要

科 目 名	看護方法VII 診療・治療における看護 「臨床薬理と医薬品の管理」	担 当 者	林 豊	開 講 時 期	2年次 前期	単 位 時 間	8/30時間 単位
	ディプロマポリシーで目指す力		看護を実践する力				
学 修 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品の基礎知識：薬物動態、薬物相互作用、遺伝子多型などの要因によって、なぜ薬の効き方に個人差が生じるのかを解説する ・ 各論（抗がん薬、免疫治療薬、輸液等を担当）：各領域の薬効分野の特徴と注意点、並びに医療安全に関する医薬品の取り扱いについても解説する 						
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品の効果に差が生じる要因を理解し、安全な医薬品使用の知識を習得する 2. 医薬品情報や規制医薬品の管理について知識を習得する 3. 抗がん薬、免疫治療薬、救急薬、輸液について、薬剤の特徴および管理方法を習得する 						
授 業 計 画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1回 薬理学の基礎知 (薬物動態、薬物相互作用など;第2章B～E)						講義
	第2回 薬理学の基礎知識 (法律関連;第2章F、(付録)看護業務に必要な薬の知識)						講義
	第3回 抗がん薬、免疫治療薬、漢方薬 (第4章、第5章、第14章)						講義
	第4回 救急薬、輸液製剤 (第13章、(付章)輸液製剤・輸血剤)						講義
成 績 評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験（看護方法VIIのうち30点分の記点） ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 授業前にテキストの該当箇所を読んでおく。 1年次授業の看護方法IV 与薬：経口与薬を復習しておいて下さい ・留意点 授業はパワーポイント(スライド)と配付資料を用いて行う。授業後は講義内容とテキストを振り返り、語句を整理しておく 						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復[3] 薬理学 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床薬理学 医学書院 ・必要物品 						
参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> ・ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち② 臨床薬理学 メディカ出版 ・ナーシング・サブリ イメージできる臨床薬理学 メディカ出版 						

授 業 概 要

科目名	看護方法Ⅷ 診療に伴う技術 与薬(注射の準備・皮下注射・筋肉注射)、点滴静脈内注射、輸血の管理	担当者	大石 祐子 柳原 泰子	開講時期	2年次 前期	単位時間	12/30時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力					
学修内容	看護のあらゆる場で必要となる共通技術の一つに、与薬がある。治療の一つである薬物治療は、医療の中で大きな役割を占めており、薬物の管理・与薬の実施・治療環境を整えるなど、看護師が果たす役割は大きい。本単元では、診療補助技術の中でも身体侵襲を伴い、安全面の配慮が特に必要な薬物療法を実施する際に必要となる基礎知識を学び、根拠に基づいた技術を身につけていく。演習では臨床場面を想定し、モデル人形などを用いながら、与薬の中でも看護師が特に実施する機会が多い「輸液セットの取り扱い」「注射の準備」「筋肉内注射」「血液製剤管理」について、基本となる知識、確実な技術を学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物療法における看護師の役割を理解する。 2. 与薬(薬剤管理を含む)に関する基礎知識を理解する。 3. 与薬の基本的な方法と看護の要点を理解する。 4. 患者の安全・安楽に配慮した「輸液セットの取り扱い」「注射の準備」「筋肉内注射」「血液製剤の管理」とそれに伴う薬剤管理について、基本となる知識、確実な技術を学ぶ。 <p>卒業時の技術到達レベル 指導の下で実施できる: 44.点滴静脈内注射の管理、実施困難な場合は見学する: 41.皮下注射, 42.筋肉注射, 43.静脈路確保・点滴静脈内注射, 45.薬剤等管理(毒薬、劇薬、麻薬、血液製剤、抗悪性腫瘍薬を含む), 46.輸血の管理, 67.人体へのリスクの大きい薬剤の暴露予防策の実施</p>						
授業項目	授業テーマ				方法(形成評価等を含む)		
	第1回	注射、針刺し事故の防止と事故後の対応 ・人体へのリスクが大きい薬剤の暴露予防策	(大石)	講義			
	第2・3回	注射の準備・皮下注射・筋肉内注射	(大石)	校内演習(A・Bグループ別)			
	第4回	輸液の基礎知識、輸液セットの取り扱い ・血液製剤等の基礎知識	(柳原)	講義			
	第5回	点滴静脈内注射の実際と管理方法	(柳原)	校内演習(A・Bグループ別)			
	第6回	人体へのリスクが大きい薬剤の暴露予防策の実施(柳原) ・輸血(血液製剤)の管理	(柳原)	校内演習(A・Bグループ別)			
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 大石先生(20点)、柳原(20点) 評価方法は後日指示します。 ※「臨床の薬理と医薬品の管理」「検査の看護」と合わせ100点満点になる。 ・基準 本校の基準に沿って評価する 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 校内演習を安全に行うために必要な知識、技術についての課題を、その都度提示します。 ・留意点 校内演習は事前課題を活用しながら行うため、しっかり取り組み演習に臨みましょう。 提出課題も評価対象としますので、得点は成績評点に加点します。 予習・復習をし、積極的に学習しましょう。 						
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 茂野香おる他: 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 任 和子他: 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 藤本真記子他監修: 看護がみえるvol.1 基礎看護技術 メディックメディア 藤本真記子他監修: 看護がみえるvol.2 基礎看護技術 メディックメディア 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[3] 薬理学 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床薬理学 医学書院 ・必要物品 看護技術セット内の物品、各自サイズのディスプレイ手袋、入学時に配布した名札 						
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち② 臨床薬理学 メディカ出版 ナーシング・サプリ イメージできる臨床薬理学 メディカ出版 吉田みつ子 本庄恵子 編著 写真でわかる 実習で使える看護技術アドバンス インターメディカ 						

授 業 概 要

科 目 名	看護方法Ⅶ 診療に伴う技術 検査の介助技術	担 当 者	石間 香里	年 次	2年次 後期	単 位 時 間	10/30時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力					
学 修 内 容	臨床場面で多用される診療補助技術のうち、身体侵襲を伴い安全面の配慮が必要な技術について根拠に基づき技術を身に付けていく。臨地を想定しながらモデル人形等を活用し、臨床で使用される物品に近い物で代用し学んでいく。この科目では、血液検査等身体侵襲を伴う検査の実施と介助についてその方法を学ぶ。また、検査の看護として放射線の被曝防止についても学ぶ。						
到 達 目 標	1) 検査の目的・種類・看護の役割を理解する 2) 臨床での主要かつ基本的な検査について自ら調べることで知り、学びを共有する 3) 主な検査技術における目的・手順・手技・注意点について理解し実施できる 4) 検査を受ける人の身体的・精神的な苦痛を考え、配慮の必要性を理解できる 卒業時の技術到達レベル 単独で実施できる: 66.放射線の被曝防止策の実施、指導の下で実施できる: 53.検体の取り扱い(血液), 54.簡易血糖測定, 55.静脈血採血, 針刺し事故の防止・事故後の対応						
授 業 計 画	授業テーマ	方法 (形成評価等を含む)					
第1回	検査の目的・種類・看護の役割、注意事項、事故防止	講義					
第2回	検査について	講義					
第3・4回	モデル人形による採血、検体の取り扱い	校内実習(A,Bグループ別) 実施中・後シンクペアシェア 実					
第5回	簡易血糖測定、放射線の曝露防止策の実施	校内実習(A,Bグループ合同)					
成 績 評 価	・方法: 筆記試験(30%) 冬季休暇中のレポート(5%) 取り組み姿勢(5%) *「与薬」と合計して100% ・基準: 本校の基準に沿って評価する。						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題 校内実習前に、実施する援助技術についての手順・留意点を指定の用紙にまとめ、校内実習前後に提出。 ・留意点 ・レポートは冬季休暇中の課題となります。文献を用いて検査における看護について考えよう。 ・根拠をもとに、正しい手順を理解した上で、実習に取り組んで下さい。 ・採血の校内実習時は、事故予防に心がけ、落ち着いて慎重に行動して下さい。						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト 任 和子他著: 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 医学書院. 佐藤久美他監修: 看護技術がみえるvol.2 臨床看護技術 第一版, メディックメディア. 江口正信編著: 検査早わかりガイド, 医学書院 ・必要物品						
参 考 文 献	村上美好監修: 写真でわかる基礎看護技術①, インターメディカ. 玉木ミヨ子編集: 看護学生必修シリーズ”なぜ? どうして?”がわかる基礎看護技術, 照林社						

授 業 概 要

科目名	看護方法Ⅷ 生命活動を支える技術 呼吸・循環を整える技術	担当者	大石 祐子 杉淵 美里	開講時期	2年次前期	単位時間	20/30時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力					
学修内容	救急医療の現場や生命活動を支える場で実施される技術については、身体侵襲を伴い安全面での配慮が必要なため、根拠に基づきモデル人形や実際の物品を用い学んでいく。医療の場で使用される医療機器については、想定される臨床場面の状況や条件に即してリアリティを持って学ぶようにしたい。この科目では、口腔・鼻腔内吸引、酸素吸入、吸入などの看護方法を中心に援助を学習する。校内実習では安全面や倫理面に十分配慮し学ぶようにする。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間にとって呼吸すること、循環することの意義を理解する。 2. 呼吸・循環が維持されないことによる症状を理解し、呼吸が弱かたれることの原因・心情を理解する。 3. 呼吸を安楽にする看護技術について理解する。 4. 人間の恒常性維持に関わる体温調節機能の果たす役割を理解する。 5. 体温調節の適応状態を調節するための看護技術の方法およびその根拠を理解する。 6. 科学的根拠に基づき、呼吸・循環を整える技術を指導の下で実施できる。 7. 医療機器の安全な取り扱い・管理方法について理解する。 卒業時の技術到達レベル 単独で実施できる:29.体温調節の援助 指導の下で実施できる:30.酸素吸入療法の実施,31.ネブライザーを用いた気道内加湿 実施困難な場合は見学する:68.医療機器の操作管理(酸素ボンベ・12誘導心電図),32.口腔内・鼻腔内吸引,33.気管内吸引						
	授業テーマ						方法 (形成評価等を含む)
	第1回 体温調節不応患者への看護【杉淵】						講義・グループワーク
	第2回 温罨法・冷罨法(体温調節の援助)【杉淵】						校内演習(A/Bグループに分かれる)
	第3回 呼吸困難のある患者への看護【大石】						講義
	第4回 吸入療法とその看護【大石】						講義・グループワーク
	第5・6回 酸素療法の実施、酸素ボンベの取り扱い【大石】 薬液吸入【大石】						校内演習(A/Bグループに分かれる)
	第7回 吸引療法とその看護【杉淵】						講義・グループワーク
	第8回 吸引(口腔内・鼻腔内吸引・気管内吸引)【杉淵】						校内演習(A/Bグループに分かれる)
	第9回 医療機器の安全な取り扱いについて(12誘導)【大石】						校内演習(A/Bグループに分かれる)
	第10回 学科試験【大石】						
成績評価	・方法 筆記試験 (大石:40点 杉淵:30点) ※看護方法Ⅷ「救命・救急の看護」と合わせて100点満点となります。 ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題 授業で説明します。 ・留意点 校内実習前には事前課題、校内実習後には振り返りがあります。						
テキスト	・テキスト 茂野香おる他:系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ,医学書院 ・必要物品 校内実習ごとにお知らせします。						
参考文献							

授 業 概 要

科目名	看護方法Ⅷ 生命活動を支える技術 救命・救急の看護	担当者	救命救急士 島田 光歩 杉渕 美里	開講時期	2年次 後期	単位時間	10/30時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力					
学修内容	救急医療の現場や生命活動を支える場で実施される技術については、身体侵襲を伴い安全面での配慮が必要なため、根拠に基づきモデル人形や実際の物品を用い学んでいく。医療の場で使用される医療機器については、想定される臨床場面の状況や条件に即してリアリティを持って学ぶようにしたい。この科目では、気道確保などの救急法を学習する。校内実習では安全面や倫理面に十分配慮し学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 救急看護の役割と対象の特性について理解する。 2. 急変と心肺機能停止の特徴と緊急対応の必要性について理解する。 3. 一次救命処置の内容と方法を理解し、実施することができる。 <p>卒業時の技術到達レベル 単独で実施できる: 47.緊急時の応援要請, 48.1次救命(BLS)</p>						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1・2回	1次救命(BLS)		実技(学校で講習を受ける)			
第3・4回	初期対応(緊急時の応援要請)、一次救命処置 救急カートについて		講義・実技 講義・グループワーク				
第5回	救急患者の対応		講義・シミュレーション				
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 30点(ワーク・筆記試験) ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 第5回の講義までに第1実習室の救急カート内の物品を各自で確認し授業に臨む。 ・留意点 基本的な救命処置は繰り返し練習することが求められるため、第1・2回の普通救命講習後はイメージトレーニングをしていく。万一欠席した場合は必ず年度内に受講すること。 						
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 任和子他著:系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ,医学書 ・必要物品 第3・4回に三角巾、第5回に電子辞書(ある人のみでよい)を用意する。 						
参考文献							

授 業 概 要

科目名	臨床判断Ⅰ	担当者	西川 はるみ 橋本 圭子	開講時期	2年 前期	単 位 時 間	15時間 1単位
	ディプロマで目指す力	実践する力					
学 修 内 容	<p>看護師は医療者として、あらゆる場での健康状態の判断や対応が求められる。そのためには、状況に応じた臨床判断能力と実践力が必要となる。そのため、臨床判断Ⅰでは、形態機能学、病態生理治療論などで学習した既習の知識を基に、臨床場面でよくある状況設定から、臨床判断モデルの「予期」「初期把握」「解釈」という思考過程から、看護に必要な臨床判断の思考をトレーニングをしていく。また、個々での学習や共同学習を通して、学び合う中で意志ある学びにつながる学習や看護に必要な協調性を養う機会にもしていきたい。</p>						
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 既習の知識・技術を活用し、対象の状態を予期する。(予期) 2. 対象の状態を把握し、変化に気づける。(初期把握) 3. 対象の状態・変化を解釈し、対応を考えることができる。(解釈) 						
授 業 計 画	授業テーマ						方法(形成評価等を含む)
	第1回 看護師に必要な臨床判断能力とは (西川)						講義
	第2回 臨床判断一気づきとその解釈(事例1) (西川)						講義・グループワーク
	第3回 臨床判断一気づきとその解釈(事例1) (西川)						シミュレーション
	第4回 臨床判断一気づきとその解釈(事例2) (西川)						講義・グループワーク
	第5回 臨床判断一気づきとその解釈(事例2) (西川)						シミュレーション
	第6回 臨床判断一気づきとその解釈(事例3) (橋本)						講義・グループワーク
	第7回 臨床判断一気づきとその解釈(事例3) (橋本)						シミュレーション
	第8回 試験(45分) (西川)						筆記試験
成 績 評 価	<p>・方法 筆記試験40%、取り組み姿勢・成果物60%</p>						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	<p>・事前課題が出た際には、必ず取り組んで来てください。 ・演習では、個人が積極的に学習し、他者の意見を尊重し合い、患者・看護への関心と学びを深め、自己の生活援助技術能力の向上を目指してほしいと思います。</p>						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	<p>・テキスト ・香春知永他著：系統看護学講座 専門基礎分野Ⅰ 基礎看護学 医学書院。 ・高木永子監修：New看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント, Gakken. 他多数 ・任 和子他著：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院。 ・熊谷たまき他監修：フィジカルアセスメントがみえる 第1版, メデックメディア。</p>						
参 考 文 献	<p>・臨床判断・臨床推論に関連した書籍 複数 ・看護技術・看護方法に関する書籍 複数</p>						

授 業 概 要

科目名	臨床判断Ⅱ	担当者	後藤治美 實石江里子	年次	2年 後期	時間 単位	15時間 1単位
	ディプロマで目指す力		実践する力				
学修内容	<p>看護師は、あらゆる場での健康状態の判断や対応が求められる。そのためには、状況に応じた臨床判断能力と実践力が必要である。臨床判断Ⅱでは、臨床判断Ⅰでの学びを基に、臨床判断モデルの思考過程から、看護で求められる臨床判断の思考と実践方法について学ぶ。さらに、臨床を想定した状況設定の実施とその省察から、自己の課題を明らかにし、その経験を積み重ねることで、看護の経験知へとつなげていく。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の状態の予期から、対象の状態・変化を適切に解釈する。 2. その場の状況から、適切に判断し、コミュニケーションを図りながら対応する。 3. 自己の看護実践を振り返り、実施の評価と自らの行為について省察する。 						
授業計画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 改めて臨床判断とは 2. 事例1に関する検討 * 事例設定の中で、学生は点滴・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換を実施する 3. 事例1のシミュレーション演習 4. 事例2に関する検討 5. 事例2のシミュレーション演習 6・7. OSCE 						<p>講義 グループワーク</p> <p>校内演習 個人ワーク 校内演習 技術試験</p>
成績評価	<p>・方法 演習参加度・課題の成果物: 65%、OSCE: 35% (OSCE 20点、リフレクション 10点、思考発話5点)</p>						
事前課題・留意点	<p>・事前課題 その都度指示します</p> <p>・留意点</p>						
テキスト・必要物品	<p>・テキスト・系統看護学講座 専門基礎分野 成人看護学, 医学書院</p> <p>・系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進, 医学書院</p> <p>・香春知永 著: 系統看護学講座 専門基礎分野 基礎看護学, 医学書院</p> <p>・高木永子 監修: 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント, 学研メディカル 秀潤社</p> <p>・必要物品 バインダー</p>						
参考文献							

授 業 概 要

科目名	地域・在宅看護論Ⅰ	担当者	吉田五百枝 増田瑞枝	開講時期	1年前期	時間単位	20時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		思いやる力・責任と役割を果たす力・地域社会に貢献する力					
学修内容	看護師が行う看護の対象は、療養者を含めた地域で暮らす人々であり、また療養の場の拡大により看護を提供する場も拡大している。本単元では、地域で暮らす人々を理解するとともに、人々が支えあって生きることの大切さを学ぶ。ライフステージ各期にある人々の暮らしを理解するとともに、環境・生活・健康の関連性について学ぶ。						
到達目標	1) ライフステージ各期にある地域で暮らす人々を理解する。 2) 地域の人々の暮らしの場を理解する。 3) 自分が暮らす地区における自治活動に参加することができる。 4) 地域で暮らす人々の環境・生活・健康の関連性を理解する。						
授業項目	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1回：暮らしとは（吉田）						GW 課題評価あり
	第2回：暮らしの基盤となる地域とは～焼津市・藤枝市（吉田）						GW 課題評価あり
	第3回：暮らしと地域を理解するための考え方～地域社会と人々の生活～						GW（マップ作成） 課題評価あり
	第4回：人々の生活と健康～担当地区の人々（小児期～老年期 各期の特徴）						GW/講義 課題評価あり
	第5回：自分が暮らす地区を知る①フィールドワーク計画書作成						GW 課題評価あり
	第6回：自分が暮らす地区を知る②フィールドワーク後の学びの共有						GW 課題評価あり
	第7回：自分が暮らす地区を知る③（吉田）						GW/講義 課題評価あり
	第8回：自分が暮らす地区を知る④（吉田）環境・生活・健康の関連性						GW 課題評価あり
	第9回：自分が暮らす地区を知る⑤（吉田）環境・生活・健康の関連性						GW 課題評価あり
	第10回：グループワークの発表						発表
成績評価	・方法：最終レポート（40%）フィールドワーク課題評価（40%）各回課題評価（20%）提出物繰り返し等取り組み姿勢で評価します。 ・基準 本校の基準に沿って評価する						
事前課題 留意点	・事前課題 夏季休暇を利用し、自分が暮らす地区のフィールドワークをしましょう。地域の自主活動にも参加してみましょう。 ・留意点 地域にはどのような社会資源・自主活動があるのか興味を持って調べてみましょう。健康との関連性を考えてみよう。						
テキスト	・テキスト 山田雅子他著：専門分野 地域・在宅看護の基盤―地域・在宅看護論1, 医学書院 ・必要物品						
参考文献	木下由美子編：Essentials地域看護学 第2版, 医歯薬出版社。 厚生統計協会：厚生指標臨時増刊号 国民衛生の動向。 木下由美子編：在宅看護論 新版, 医歯薬出版社。 秋山正子：つながる・ささえる・つくりだす 在宅現場の地域包括ケア 医学書院 長江弘子編：生活と医療を統合する継続看護マネジメント第2版 医歯薬出版社						

授 業 概 要

科目名	地域・在宅看護論Ⅱ	担当者	吉田五百枝 石間香里	開講時期	2年後期	時間単位	20時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力・思いやる力・責任と役割を果たす力・地域社会に貢献する力					
学修内容	<p>地域の人々の健康と暮らしを支える看護を実践するためには、共に支える役割をもつ保健・医療・福祉に関する他の職種を理解を深め、地域包括ケアシステムを活用した専門職間の連携、協働の意義と概念を理解することが不可欠である。そのため、様々な場で展開される地域・在宅看護実践について学んだ上で、他の専門職の役割を尊重し協働することを学ぶ。特に本単元では、他の専門職を目指す学生との意見交換の場に臨み、実際的な他職種連携・協働に向けて良好な関係作りができるコミュニケーション能力を養う。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 保健・医療・福祉に関わる各専門職種の基本概念や関係法規、役割を理解する。 2) 地域包括ケアシステムの意義と概念を理解する。 3) 専門職連携演習において他の専門職の専門性や役割、看護との協働について理解を深める。 4) 多職種を尊重した相互関係を築けるよう、看護職としての役割と姿勢を理解する。 						
授業項目	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1回：様々な場で展開される地域・在宅看護実践（訪問・通所・短期入院）						講義
	第2回：共に支える各専門職の目的や特殊性（基本概念や関係法規等）						講義
	第3回：地域包括ケアシステムの意義と概念						講義
	第4回：地域包括ケアシステムについて（理想を考え作ってみましょう）						GW/講義
	第5回：専門職連携演習①演習Ⅰインテークン・症例共有 静福大生と対面						GW 意見交換
	第6回：専門職連携演習②必要な看護と他職との連携・協働を計画する 学内						GW 課題評価あり
	第7回：専門職連携演習③必要な看護と他職との連携・協働を計画する 学内						GW 課題評価あり
	第8回：専門職連携演習④介護・看護を学ぶ学生間で療養者支援の連携を考える 静福生リモート						GW 意見交換
	第9回：専門職連携演習⑤療養者支援の連携を考える 静福大生と対面						意見交換・発表
	第10回：専門職連携演習振り返り（他職を尊重する看護師の姿勢とは）						GW 発表
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法：筆記試験（40％）演習評価（60％）提出物、振り返り等取り組み姿勢で評価します。 ・基準 本校の基準に沿って評価する 						
事前課題 留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 1年次看護学概論で学習した多職種についての学習資料を復習して臨みましょう。 ・留意点 静岡福祉大学の学生さんと交流します。大学に向いて学習しますので、マナーや礼儀を守って行動しましょう。 						
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 山田雅子他著：専門分野 地域・在宅看護の基盤—地域・在宅看護論Ⅰ・Ⅱ、医学書院 ・必要物品 看護学概論で調べた資料や学習ファイル 						
参考文献	<p>木下由美子編：Essentials地域看護学 第2版、医歯薬出版社。 厚生統計協会：厚生指標臨時増刊号 国民衛生の動向。 秋山正子：つながる・ささえる・つくりだす 在り現場の地域包括ケア 医学書院</p>						

授 業 概 要

科目名	地域・在宅看護論Ⅲ	担当者	吉田五百枝 大井陽江 小林有希子 朝比奈結華	開講時期	2年前期	時間 単位	20時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力・思いやる力・責任と役割を果たす力・地域社会に貢献する力					
学修内容	<p>少子超高齢社会の到来、疾病構造の変化、健康や療養の考え方の多様化などにより、医療を提供する場は施設から地域社会へとその範囲を広げ、更には在宅療養へと移行していく方向にある。本単元では、地域・在宅看護の対象者とその家族について理解し、地域における暮らしを支える看護の役割について学ぶ。また、健康課題を持ちながら地域に暮らす人々に対する切れ目のない看護の提供について学ぶ。</p>						
到達目標	<p>1) 地域・在宅看護に関わる現状を踏まえ、地域における暮らしを支える看護の概念と目的を理解する。 2) 地域・在宅看護の対象者とその家族を理解する。 3) 地域・在宅看護の特徴を理解する。 4) 看護の継続性について考えることができる。</p>						
授業項目	授業テーマ	方法（形成評価等を含む）					
	第1回：暮らしを支える地域・在宅看護（吉田）	講義					
	第2回：地域・在宅看護の対象者（小林）	講義					
	第3回：家族の理解（小林）	講義					
	第4回：地域・在宅看護の特徴①（小林）	GW/講義	課題評価あり				
	第5回：地域・在宅看護の特徴②（小林）	GW/講義	課題評価あり				
	第6回：看護の継続性（大井）	講義					
	第7回：地域・在宅看護の歴史と訪問看護の現状（朝比奈）	GW/講義	課題評価あり				
	第8回：地域・在宅看護の背景と暮らしにおけるリスクマネジメント（吉田）	GW/講義	課題評価あり				
	第9回：地域・在宅看護における意思決定支援と権利保障（吉田）	GW/講義	課題評価あり				
	第10回：学科試験（吉田）	講義					
成績評価	<p>・方法：筆記試験（講師50%・学内教員30%）課題評価（講師10%・学内教員10%） ・基準 本校の基準に沿って評価する</p>						
事前課題 留意点	<p>・事前課題 ・留意点 地域・在宅看護論Ⅰ 地域・在宅看護実習Ⅰで学んだ「暮らしの基盤としての地域の理解」を基に、地域・在宅看護に求められる役割について深く考えていきましょう。</p>						
テキスト	<p>・テキスト 山田雅子他著：専門分野 地域・在宅看護の基盤—地域・在宅看護論Ⅰ, 医学書院 山田雅子他著：専門分野 地域・在宅看護の実践—地域・在宅看護論Ⅱ, 医学書院 ・必要物品</p>						
参考文献	<p>厚生統計協会：厚生指標臨時増刊号 国民衛生の動向。 木下由美子編：在宅看護論 新版, 医歯薬出版社。 杉本正子、眞船拓子編集：看護師教育のための地域看護概説～公衆衛生看護を含む地域看護に乗り込むために～ ニューヴェルヒロカワ 長江弘子編：生活と医療を統合する継続看護マネジメント第2版 医歯薬出版社</p>						

授 業 概 要

科目名	地域・在宅看護論Ⅳ	担当者	篠原彰 三輪一太 東野定律 池田真紀 吉田五百枝 朝比奈結華	開講時期	2年前期	時間単位	30時間 /1単位	
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力・思いやる力・責任と役割を果たす力・地域社会に貢献する力						
学修内容	本單元では、地域・在宅看護の実践にあたり、関連する制度を広く学びその活用について理解するとともに、在宅医療の現状と課題、訪問看護の実際を学ぶことで看護の果たす役割を学ぶ。長い期間を通して暮らしを支えるために、社会保障制度に基づき様々な形で看護サービスを提供していることを理解する。地域・在宅看護マネジメントや地域・在宅看護活動の創造について学ぶ。							
到達目標	1) 地域・在宅看護に関わる在宅医療の現状と課題が理解できる。 2) 地域包括ケアの現状について理解する。 3) 訪問看護活動の実際について理解する。 4) 社会資源と地域・在宅看護に関わる法的制度を理解する。 5) ネットワーク図の作成を通してケアマネジメントの考え方と連携について理解する。 6) マネジメントの考え方と地域・在宅看護マネジメントについて理解する。							
授業項目	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）	
	第1回：在宅医療の現状と課題（篠原）						講義	レポートあり
	第2回：超高齢社会における医療の変化「治す医療」～「支える医療」へ（三輪）						講義	レポートあり
	第3回：在宅療養の現状と在宅医療（三輪）						講義	
	第4回：在宅医療・介護における地域包括ケアシステム（東野）						講義	
	第5回：訪問看護の対象者・導入の流れ（介護保険医療保険の違い、アセスメント等）（池田）						講義	レポートあり
	第6回：訪問看護の手順と実際（災害対策、ターミナルケア、活動・療養環境調整等）（池田）						講義	
	第7回：地域の社会資源（吉田）						GW	
	第8回：社会資源と法的制度の活用（吉田）						GW発表	他者評価あり 講義
	第9回：地域ネットワーク図（吉田）						講義	地域ネットワーク図の課題あり
	第10回：社会資源と地域ケア（朝比奈）						講義	
	第11回：地域を取り巻く保健・医療・福祉サービス（朝比奈）						講義	
	第12回：地域・在宅看護マネジメントと多職種連携・多職種チームでの協働の実際（朝比奈）						講義	
	第13回：介護保険制度上のケアマネジメントの考え方（朝比奈）						GW/講義	
	第14回：地域・在宅看護活動の創造（朝比奈）						講義	
	第15回：学科試験（吉田）							
成績評価	・方法：筆記試験（40%・吉田30%）GW参加度と発表内容（10%、第1・2・5回レポート提出状況（10%）ネットワーク図（10点） ・基準 本校の基準に沿って評価する							
事前課題 留意点	・事前課題 春季休暇時自分の住む地域の社会資源（保健・福祉）についてレポートを提出する。 ・留意点 地域の社会資源と法的制度を具体的に結び付けながら、地域包括ケアの理解を深めてほしい。							
テキスト	・テキスト 山田雅子他著：専門分野 地域・在宅看護の基盤—地域・在宅看護論Ⅰ, 医学書院 山田雅子他著：専門分野 地域・在宅看護の実践—地域・在宅看護論Ⅱ, 医学書院 ・必要物品 第7回GW時に、レポート作成のために使用した社会資源の資料を持参すること。							
参考文献	厚生統計協会：厚生指針臨時増刊号 国民衛生の動向, 訪問看護実務相談, 全国訪問看護協会 小島操子他：看護のコツと落とし穴 森元陽子：訪問看護という生き方, 幻冬舎 押川真喜子監修：写真でわかる訪問看護, インターメディアカ 木下由美子編：Essentials地域看護学 第2版, 医歯薬出版社。							

授 業 概 要

科目名	地域・在宅看護論Ⅴ	担当者	石間香里 大井陽江	開講時期	2年前期	時間単位	20時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力・思いやる力・責任と役割を果たす力・地域社会に貢献する力					
学修内容	暮らしの場で看護援助を提供するための心構えを理解し、個々の生活スタイルを考慮したうえで、人々とその家族を視野に入れた個別性のある援助が求められている。また、看護師は対象者の心身の状態を正しく把握し、適切な判断と処置を行っていく必要がある。そして、在宅での医療行為は、基本的に対象者、家族が行うことになるため、対象者と家族が安心して在宅療養生活を継続できるような教育・指導を行う必要がある。この単元では、基礎看護技術の原理原則を踏まえながら、対象者の希望する暮らしを支える日常生活援助技術と医療的ケアについて学ぶ。						
到達目標	1) 地域・在宅看護技術の基本的な考え方を理解できる。 2) 地域・在宅看護における対象者や家族への生活支援の方法と技術を理解する。 3) 基礎看護技術を応用・工夫し、対象者に合った地域・在宅看護技術を考え、実践することができる。 4) 医療的ケアのある対象者・家族への援助が理解できる。 卒業時技術到達レベル 指導の下で実施できる 7-排泄援助 22-シャワー浴介助 30-酸素吸入療法の実施 35-褥瘡予防ケア 実施困難の場合は見学する 35-褥瘡予防ケア						
授業項目	授業テーマ	方法（形成評価等を含む）					
	＜日常生活援助＞						
	第1回：暮らしの場で看護するための基本姿勢とコミュニケーション技術	講義 課題評価あり					
	第2～3回：暮らしの場における清潔・衣生活とその援助（シャワー浴）	講義・GW・校内実習 課題評価					
	第4～5回：暮らしの場における排泄とその援助（摘便）	講義・校内実習 課題評価					
	＜医療的ケア＞						
	第6回：地域・在宅看護における栄養管理とケア（大井）	講義					
	第7～8回：地域・在宅看護における呼吸管理とケア	講義・校内実習 帝人による説明・体験					
	第9回：地域・在宅看護における排泄管理とケア（大井）	講義					
	第10回：地域・在宅看護における褥瘡予防とケア（大井）	講義					
	第11回：学科試験						
成績評価	・方法：筆記試験（学内教員60％・大井15％）課題評価と提出状況（学内教員25％） ・基準：本校の基準に沿って評価する						
事前課題 留意点	・事前課題 ・留意点 全ての領域を含んでいます。今までの知識を用いて応用や工夫をして楽しみながら看護を考えていきましょう						
テキスト	・テキスト 押川眞喜子監修：写真でわかる訪問看護、インターメディカ 山田雅子他著：専門分野 地域・在宅看護の実践―地域・在宅看護論Ⅱ, 医学書院 ・必要物品 校内実習時に必要な物品を準備する。						
参考文献	杉本正子、眞船拓子編集：在宅看護論―実践を言葉に―第6版, ニューヴェルヒロカワ 三浦規他：ケアのこころシリーズ⑩在宅でのケア, インターメディカ. 木下由美子編：在宅看護論 新版, 医歯薬出版社. 角田直枝編集：スキルアップのための在宅看護マニュアル, 学習研究社. 川村佐和子：組織力を高める在宅ケア高度実践術, 日本看護協会出版社.						

授 業 概 要

科目名	地域・在宅看護論Ⅵ	担当者	吉田五百枝 石間香里	開講時期	2年後期	時間 単位	20時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力・思いやる力・責任と役割を果たす力・地域社会に貢献する力					
学修内容	地域・在宅看護の対象者の背景は多様であり、様々な健康レベルにある。対象者・家族の「生きること」を支えるためには、ひとりひとりの生き方に応じた医療とケアを独創性をもって提供することが求められる。本単元では、地域・在宅における状態別・時期別の看護を理解し、地域・在宅看護の展開について学ぶ。						
到達目標	1) 地域・在宅における主な状態別・時期別の看護が理解できる。 2) 地域・在宅における看護過程の視点・展開が理解できる。						
授業項目	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1回：地域・在宅看護過程の特徴感染症のある対象者への援助（吉田）						講義
	第2回：寝たきりの在宅療養者への看護（石間）						講義
	第3回：認知症高齢在宅療養者への看護（石間）						講義
	第4回：ターミナル期にある在宅療養者への看護（石間）						講義
	第5回：難病の在宅療養者への看護（石間）						講義
	第6～9回：地域・在宅看護過程の展開方法（吉田）						第6回：個人ワークで「ネットワーク図」「私の捉えた療養者」を作成 第7,8回：個人ワーク記録物を基にGW実地第3回発表
	第10回：講義 学科試験（石間）						講義
成績評価	・方法：筆記試験（学内教員65％・吉田15％）課題評価（「ネットワーク図」5％「私の捉えた療養者」5％）GWの参加状況と発表内容（10％） ・基準 本校の基準に沿って評価する						
事前課題 留意点	・留意点 地域・在宅看護論Ⅲ～Ⅴの授業内容を復習して講義に臨んでください。						
テキスト	・テキスト 山田雅子他著：専門分野 地域・在宅看護の実践―地域・在宅看護論Ⅱ, 医学書院						
参考文献	杉本正子、眞船拓子編纂：在宅看護論―実践を言葉に―第6版, ヌーヴェルヒロカワ 杉本正子、眞船拓子編纂：看護師教育のための地域看護概説～公民館生活課を含む地域看護に就いて～のために～, ヌーヴェルヒロカワ 木下由美子編：在宅看護論 新版, 医歯薬出版社. 角田直枝編纂：スキルアップのための在宅看護マニュアル, 学習研究社						

授 業 概 要

科目名	成人看護学Ⅰ 成人看護学総論	担当者	安達 百合 保健師	開講時期	1年後期	単位 時間	20時間 /1単位
	ディプロマポリシーで目指す力		思いやる力・責任と役割を果たす力・地域社会に貢献する力				
学修内容	身体的に成長・成熟・衰退へと変化し、精神(スピリチュアル)・心理・社会的に独立し社会的期待も大きく自立し、自律する成人の発達段階的な特徴や生活上の役割を理解し、この時期にある人に起こる健康障害について理解する。 また、成人期にある人の健康の維持、増進、疾病予防(健康回復)に向けて重要な支援について理解し、必要な看護を深める。自己実現を目指して健康を維持した生活と健康のつながりや健康障害への影響について理解する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人看護学における成人期のそれぞれの発達段階の特徴を理解する 2. 成人期における身体的・心理的・社会的特徴を実際の関わりから理解を深める 3. 成人期にある人の生活と健康の関連や健康障害について理解を深める 4. 成人期にある人への健康教育(保健指導)の視点を理解する 5. 成人期にある人がさらに健康増進できるような支援について理解する 						
授業計画	授業テーマ			方法(形成評価等を含む)			
	第1,2回: 成人期にある対象の理解	[安達]	講義				
	第3~5回 成人期にみられる健康問題	[安達]	講義・グループワーク・発表				
	第6,7回: 成人期の健康問題①②	[安達]	講義				
	第8,9回: 成人期にある人への保健活動の実際	[保健師]	講義				
	第10回: 試験	[安達]					
成績評価	<p>・方法 筆記試験とレポート2種類 点数配分:健康問題レポート20点、インタビューレポート10点、グループワーク参加度10点、筆記試験60点</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>						
事前課題・留意点	<p>・事前課題</p> <p>・留意点 夏季休暇には本単元で扱う内容についての課題を出します(評価対象になります)。新聞記事を使用するため、購読していない人は、購読している人に頼むなど、使えるよう自分で準備をして下さい。</p>						
テキスト・必要物品	<p>・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 医学書院</p> <p>・必要物品</p>						
参考文献							

授 業 概 要

科目名	成人看護学Ⅱ	担当者	安達 百合 片山 聖治	開講時期	2年前期	時間 単位	30時間 /1単位
	ディプロマポリシーで目指す力		実践する力・思いやる力・責任と役割を果たす力・看護を探求する力				
学修内容	<p>患者が健康を害した時、まず最初に様々な症状を自覚する。患者の症状や訴えから何が起きているかを考え、今後何が起きるかを予測し、今起きている症状を緩和するための看護を実践している。そこで、症状緩和となる治療とその看護について学ぶ。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者に起きている症状(異常)に「気づく」ことができる 2. 症状におけるアセスメントから援助の過程を理解できる 3. 患者の状況に合わせて行われる治療を理解し、必要な看護を考えることができる 4. 患者の苦痛を最小限にするための看護に必要な臨床判断について学ぶ 						
授業計画	授業テーマ			方法(形成評価等を含む)			
	第1～3回: 呼吸に関連する症状を示す対象への看護 (呼吸困難・喀血・チアノーゼ)			〔片山〕	講義・グループワーク		
	第4～6回: 排泄に関連するに症状を示す対象への看護 (下痢・下血・便秘)			〔安達〕	講義・グループワーク		
	第7～9回: 安楽に関連する症状を示す対象への看護 (悪心・嘔吐・吐血)			〔片山〕	講義・グループワーク		
	第10回: 試験			〔片山〕			
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験 75% 取り組み姿勢 25% (自己・他者評価) 試験の点数配分は、安達 25点 片山 50点です。 ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 ・留意点 						
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 医学書院 [2]呼吸器 [5]消化器 [7]脳・神経 ・系統看護学講座 別巻 臨床検査, 医学書院 ・高木永子他 : 看護過程に沿った対症看護, 学研プラス ・必要物品 						
参考文献							

授 業 概 要

科 目 名	成人看護学Ⅲ	担 当 者	安達百合 片山 聖治 石川 智也 浅野 太志 長坂 信次郎 藤田智和 河原崎まどか	開 講 時 期	2年前期	単 位 時 間	30時間 /1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力・思いやる力・責任と役割を果たす力・看護を探究する力					
学 修 内 容	身体侵襲が高く生命の危機的状態にある人へ、回復の促進及び異常の早期発見について理解し、援助するための看護を学ぶ。さらに、このような状態にある人、その人を取り巻く人々の思いや立場を考えた支援について学ぶ。						
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康危機状態にある成人の身体的・心理的特徴を理解する 2. 健康危機的状態にある患者の状態を把握する視点や必要な看護援助を考える 3. 手術侵襲に対する生体反応と回復過程を理解する 4. 身体侵襲を受けた人の身体的心理的社会的な特徴を理解する 5. 手術後の身体的心理的变化を受け止め、生活を支援する看護を考える 卒業時の技術到達レベル: 12 ストーマ管理 実施困難な場合は見学する						
授 業 計 画	授業テーマ						方法 (形成評価等を含む)
	第1、2回:	クリティカルケア(重症集中ケア)総論	[安達]				講義
	第3回:	救急看護	[長坂先生]				講義
	第4～6回:	救命救急治療を必要とする状況 虚血性心疾患の急性期看護 (第5・6回はシミュレーション)	[長坂先生 ・藤田先生]				講義 校内実習
	第7回:	クリティカルケア(重症集中ケア)を必要とする人への看護	[片山]				講義
	第8回:	手術療法を受ける患者の特徴	[片山]				講義
	第9回:	手術療法を受ける患者の理解と看護の実際	[浅野先生]				講義
	第10、11回:	手術療法を受ける患者の理解と看護の実際	[石川先生]				講義
	第12、13回:	人工肛門造設患者の看護 (術前～術直後)(回復期～退院後の生活)	[河原崎先生]				講義
	第14回:	人工肛門(ストーマ装具)についての説明、ストーマ装具交換の実際					校内実習
	第15回:	試験	[片山]				
成 績 評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験 試験の点数配分は、藤田先生 25点 石川先生 25点 河原崎先生 25点 片山 25点 合計100点です ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 ・留意点 授業中、テキストに大切なことを書き込んだり、線を引いたり、付箋を貼ったりして、学習したことを臨地実習でスムーズに活用できるよう工夫をして質問してください。予習ももちろん大切ですが、復習を十分に行なってください。わからないところ積極的に質問してください。 						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト ・矢永勝彦他編集:系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論, 医学書院. ・井上智子編集:パーフェクト臨床実習ガイド 成人看護Ⅰ, 照林社. ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学, 医学書院. [3]循環器 ・系統看護学講座 別巻 救急看護学, 医学書院 ・系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学, 医学書院 ・系統看護学講座 別巻 臨床検査, 医学書院 ・必要物品 校内実習の時は、ポロシャツとジャージで出席してください。 						
文 参 考 書	<ul style="list-style-type: none"> ・安酸史子ほか編集:ナースング・グラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論 メディカ出版. ・高木永子監修:New 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント, Gakken. 						

授 業 概 要

科 目 名	成人看護学Ⅳ	担 当 者	安達 百合 橋本 圭子 秋山 美幸 秋山 弘太 遠藤 みき 伊藤 絵里香	開 講 時 期	2年後期	単 位 時 間	30 時間 /1単位
	ディプロマポリシーで目指す力		実践する力・思いやる力・責任と役割を果たす力・地域社会に貢献する力・看護を探究する力				
学 修 内 容	健康障害によって生活の変化を余儀なくされた人の状態、状況を理解し、セルフケアや自己管理を促進するような看護を理解する。他職種と連携し、その人の能力を活かして生活できるよう具体的な支援を学ぶ。						
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 既習の知識を活用し、セルフマネジメントを必要としている成人の状況を理解する。 2. セルフマネジメントを獲得しようとする人への看護の実際を学ぶ。 3. セルフケア低下状態にある成人を理解する。 4. セルフケア再獲得を支援するチームアプローチの必要性と看護師の役割を学ぶ。 5. セルフケア再獲得を目指す人への看護の実際を理解する 						
授 業 計 画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回：	慢性期看護総論	〔 安達 〕	講義			
	第2～4回：	内部環境調節機能障害のある患者への看護(糖尿	〔 橋本 〕	講義・グループワーク			
	第5～7回：	自己免疫性疾患のある患者への看護 (膠原病・全身性エリテマトーデス)	〔 安達 〕				
	第8～10回：	脳・神経機能障害のある人への看護(脳血管障害	〔 秋山 ^{先生} 〕	講義・グループワーク			
	第11回：	理学療法の実際	〔 秋山 ^{先生} 〕				
	第12回：	作業療法の実際	〔 伊藤 ^{先生} 〕	講義			
	第13回：	言語療法の実際	〔 遠藤 ^{先生} 〕				
		言語障害の種類(失語症・構音障害・難聴)と特徴、嚥下障害 言語障害や嚥下障害の対応方法					
	第14回：	セルフケア再獲得を支援するための看護	〔 橋本 〕	講義			
	第15回：	試験	〔 橋本 〕				
成 績 評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験 試験の点数配分は、安達 40点 橋本 30点 秋山先生 30点 合計100点です。 ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 事例を用いて、授業を行っていきます。授業項目に書かれている疾患に関わる臓器の正常な機能や、疾患により現れる症状とのつながり、必要な検査や治療の根拠を事前に学習しておいてください。 ・留意点 						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 医学書院 [6]代謝・内分泌 [7]脳・神経 [11]アレルギー・膠原病感染症 ・系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 ・系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院 ・必要物品 						
参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> ・安酸史子ほか編集：ナーシング・グラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論、メディカ出版。 						

授 業 概 要

科目名	成人看護学Ⅴ	担当者	安達 百合 橋本 圭子 石井 夕紀 黒木 真紀 飯塚 計江 寺田 知生	開講時期	2年後期	単位 時間	30時間 /1単位
ディプロマポリシーで目指す力 実践する力・思いやる力・責任と役割を果たす力・地域社会に貢献する力・看護を探究する力							
学修内容	がん医療の進歩に伴いがんと共に生きていく人を支援するため根拠ある看護実践は重要である。そこで、がん治療を受ける人への看護の実際を学ぶ。更に苦痛へのアプローチやQuality of lifeの向上を中核とした緩和ケアを必要とする人(患者家族)を理解し、他職種と連携してその人の生活を支える具体的な看護を学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. がん治療や症状の管理、セルフケアへの支援に必要な看護を学ぶ。 2. がん治療の継続やチームでの支援など看護の役割や重要性を理解する。 3. 緩和ケアの現状と展望や緩和ケアを必要とする人の特徴を理解する。 4. 緩和ケアを必要とする病状や患者家族へのケアの実際を学び、緩和ケアの実践について理解を深める。 						
授業計画	授業テーマ					方法 (形成評価等を含む)	
	第1, 2回: がん看護総論	[安達]		講義			
	第3～5回: 放射線療法を受ける人を支える看護	[寺田先生]		講義・グループワーク			
	第6, 7回: 化学療法を受けている人の日常生活を支える看護	[飯塚先生]		講義・グループワーク			
	第8～10回: 緩和ケアを必要とする人の看護	[石井先生]		講義			
	第11,12回: 終末期にある人への看護(心不全)	[橋本]		講義・グループワーク			
	第13, 14回: 終末期にある人の家族および遺族への看護	[黒木先生]		講義・グループワーク・校内実習			
	第15回: 試験	[安達]					
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験 ・基準 試験の点数配分は、安達 25点 橋本 25点 寺田先生 25点 石井先生 25点 合計100点です。本校の基準に沿って評価する。 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 ・留意点 						
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 別巻 緩和ケア, 医学書院, ・系統看護学講座 別巻 がん看護学, 医学書院 ・系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学, 医学書院, ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[3] 循環器, 医学書院, ・必要物品 						
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・安藤史子他編集: ナーシング・グラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論, メディカ出版 ・高木永子他 : 看護過程に沿った対象看護, 学研プラス ・一般社団法人 日本がん看護学会監修: 患者の感情表出を促すNURSEを用いたコミュニケーションスキル, 医学書 						

授 業 概 要

科目名	成人看護学Ⅵ	担当者	安達百合 片山聖治	開講時期	2年前後期	単位 時間	30時間 /1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力・思いやる力・責任と役割を果たす力・地域社会に貢献する力・看護を探究する力					
学修内容	この科目では、健康障害のある成人への看護実践の思考の習得を目指している。事例を用いて、成人期にある人の身体的心理的社会的特徴から健康障害の起きた理由を捉え、その人の力を活かし健康の回復増進へと支援する看護ができる能力を養う。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. シミュレーションで事例患者の状態観察を実践できる 2. 事例を通して、なぜその状況が起きているのかを考え、看護上の問題を表現する 3. 既習の知識を活用し、成人期の特徴を踏まえた個別性のある看護を考えることができる 4. 事例の個別性を踏まえ、看護の方向性を考えることができる <p style="margin-top: 5px;">卒業時の技術到達レベル: 4 食事指導 36 創傷処置(創洗浄・創保護) 37 ドレーン類の挿入部の処置 実施困難な場合は見学する</p>						
授業計画	授業テーマ						方法(形成評価等を含む)
	第1回: 事例展開(慢性腎不全) 病態・症状・情報の整理	〔 安達 〕					講義
	第2回: 状態観察シミュレーション	〔 安達 〕					演習
	第3回: 状態観察シミュレーション	〔 安達 〕					演習
	第4回: 状態観察シミュレーション	〔 安達 〕					演習
	第5回: 看護計画立案 グループワーク	〔 安達 〕					グループワーク
	第6回: 看護計画発表 グループ内発表	〔 安達 〕					講義・グループワーク
	第7回: まとめ	〔 安達 〕					講義・グループワーク
	第8回: 事例展開(周術期胃癌患者) 病態・症状・情報の整理	〔 片山 〕					講義
	第9回: 状態観察・看護援助実践 シミュレーション	〔 片山 〕					演習
	第10回: 状態観察・看護援助実践 シミュレーション	〔 片山 〕					演習
	第11回: 状態観察・看護援助実践 シミュレーション	〔 片山 〕					演習
	第12回: 看護計画立案 グループワーク	〔 片山 〕					グループワーク
	第13回: 看護計画発表 グループ内発表	〔 片山 〕					グループワーク
	第14回: 看護実践シミュレーション	〔 片山 〕					演習
	第15回: 試験	〔 片山 〕					講義・グループワーク
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験50% シミュレーション参加度・グループ評価 50% ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 事前に病態の理解を深め、患者の病態に対して必要な情報は何かを明らかにしておく。看護過程は自己課題となるため次回までに情報を整理しアセスメントを各自進めて参加すること。 ・留意点 グループワーク中心の授業です。積極的に参加しましょう。 シミュレーション演習の際は、ポロシャツとジャージで出席してください。 						
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学, 医学書院, 5) 消化器 [8] 腎・泌尿器 ・系統看護学講座 別巻 臨床検査, 医学書院 ・系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学, 医学書院, [2] 基礎看護技術Ⅰ [4] 臨床看護総論 ・高木永子他 : 看護過程に沿った対症看護, 学研プラス ・必要物品 						
参考文献							

授 業 概 要

科目名	老年看護学Ⅰ	担当者	杉淵美里 保健師	開講時期	1年後期	単位時間	25時間 /1単位
ディプロマポリシーで目指す力		責任と役割を果たす力 思いやる力 地域社会に貢献する力					
学修内容	私たちがまだ経験したことのない老いを生きる高齢者に対する理解を深め、高齢者がそれぞれの健康レベルや状況に適應し、自立した生活を獲得して生の完成をはかれるように援助できる能力を養う。老年期にある人々の身体的・心理的・社会的な変化を理解し、高齢者の生活の現状を、高齢者を取り巻く社会の視点を通して理解する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期の加齢に伴う身体的・心理的・社会的な変化の特徴を理解する。 2. 生きてきた背景を理解し、高齢者の生活と健康について理解する。 3. 高齢者を取り巻く社会の変化と、高齢者と家族のつながりを理解する。 4. 保健医療と福祉制度に関する概要について理解する。 <p><卒業時の技術到達レベル> 単独で実施できる 14.歩行・移動介助</p>						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回 老年者を知る 第2回 老年期の発達と成熟 第3回 加齢に伴う身体・心理・社会的変化と健康障害① 第4回 加齢に伴う身体・心理・社会的変化と健康障害② 第5回 高齢者疑似体験 第6回 高齢者の生活と健康 第7回 高齢社会における保健医療福祉 第8回 高齢者の権利擁護 第9回 高齢者におけるセクシュアリティ 第10回 地域における老人保健医療と介護保険の現状（保健師） 第11回 自立支援・理論 第12回 老年看護の特徴・役割 第13回 試験(45分)				講義 講義 講義・グループワーク グループワーク発表 校内実習 講義 講義・グループワーク 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義・グループワーク 筆記試験		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 杉淵:筆記試験(70点) 参加姿勢・グループワーク成果物・課題提出など(30点) ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 「高齢者のすごいところを紹介します」のテーマでレポートを作成してもらいます。 ①高齢者へのインタビュー ②新聞記事や雑誌等から見つける ①②どちらでも可。 詳細は夏休み前に説明します。 ・留意点 第5回は動きやすい服装で校内実習に臨みましょう。 高齢者に関する日々のニュースや報道に関心を持ちましょう。 グループワークを取り入れながら講義を行うため、積極的に意見交換しましょう。 						
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 「国民衛生の動向」厚生労働統計協会 ・必要物品 第5回時に雑誌や新聞、財布と小銭、携帯電話を持参してもらいます。 詳細は授業が近くなったら担当教員より説明します。 						
参考文献	系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学の各系統 医学書院 ナーシンググラフィカ 高齢者の健康と障害 南江堂						

授 業 概 要

科目名	老年看護学Ⅱ	担当者	前田信吾 田村享治 鈴木洋司	開講時期	2年前期	単位時間 15時間 /1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力 看護を探究する力				
学修内容	高齢者は加齢に伴う身体機能の変化により、成人と比較して罹患しやすくなる疾患がある。また、老年症候群のように日常生活の中に潜む健康障害も既往疾患を増悪させ致命的な状態を引き起こすことがある。このように、微妙なバランスの上に立つ高齢者の健康状態を理解し、高齢者特有の疾患の成り行きを、看護の視点を通して学ぶ。					
到達目標	加齢に伴う身体機能の変化によっておこる高齢者の代表的な疾患(循環器、感覚器、腎・泌尿器、内分泌・代謝機能、消化器、脳、呼吸器系、老年症候群)の特徴をふまえ、その病態・症状・治療・予後・予防法について理解する。					
授業計画	授業テーマ					方法(形成評価等を含む)
	第1回 循環器機能の低下によっておこる疾患		前田		講義	
	第2回 腎・泌尿器の機能低下によっておこる症候・疾患		前田		講義	
	第3回 内分泌・代謝機能の低下によっておこる症候・疾患		前田		講義	
	第4回 消化器機能の低下によっておこる疾患		前田		講義	
	第5回 呼吸器系感染症疾患 誤嚥性肺炎、レジオネラ、MRSA など		田村		講義	
	第6回 老年症候群、長期臥床によっておこる症候・疾患 脱水、熱中症、低栄養、褥瘡、廃用症候群 など		田村		講義	
	第7回 脳の変性疾患 ①認知症とは何か 意識障害やせん妄とどう違うのか ②パーキンソン病について 基本的な理解		鈴木	<3時間>	講義	
成績評価	・方法 筆記試験 前田先生:50点 田村先生:30点 鈴木先生:20点 ・基準 本校の基準に沿って評価する。					
事前課題・留意点	・事前課題 ・留意点 興味をもって授業に臨んでください。					
テキスト・必要物品	・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 ・必要物品					
参考文献	カラー版 老年医学 系統講義テキスト 日本老年医学会編集 西村書店					

授 業 概 要

科目名	老年看護学Ⅲ	担当者	八木寿乃 中村明美 大塚さおり 橋本圭子 杉淵美里	開講時期	2年前期	単位時期	30時間 /1単位
ディプロマポリシーで目指す力		思いやる力 実践する力 社会貢献					
学修内容	老化による身体的・心理的・社会的機能の低下を考慮しながら、基礎看護学で学んだ日常生活援助の技術や老年看護学Ⅰ・Ⅱで身につけた知識を基盤に、高齢者に適した方法で自立を促せるような看護方法を学ぶ。また、高齢者に起こりやすい健康問題とその看護方法、高齢者の健康段階に応じた福祉施設における看護の機能や役割を学ぶ。さらに、認知症高齢者に対する理解を深め、認知症看護のあり方を学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の日常生活における基本的看護の方法について理解する。 2. 高齢者に起こりやすい健康障害について理解し、その予防と看護方法について理解する。 3. 介護福祉施設における看護の役割と機能について理解する。 4. 認知症高齢者の理解を深め、看護を理解する。 <p><卒業時の到達レベル> 指導の下で実施できる 7.排泄援助(おむつ) 23.陰部の保清</p>						
授業計画	授業テーマ						方法(形成評価等を含む)
	第1回 老年看護の基本、機能と役割(杉淵) 第2回 食生活、摂食・嚥下機能のアセスメントと看護(杉淵) 第3回 排泄障害のアセスメントと看護(橋本) 第4回 高齢者のおむつ交換、陰部洗浄(橋本) 第5回 高齢者の清潔行為のアセスメントと看護(杉淵) 第6回 高齢者のコミュニケーション(八木) 第7回 生活リズム、活動・睡眠障害のアセスメントと看護(八木) 第8回 転倒のアセスメントと看護(八木) 第9回 寝たきり予防、廃用症候群のアセスメントと看護(八木) 第10回 介護老人福祉施設の看護(大塚) 第11回 認知症高齢者の看護① 認知症とは(中村) 第12回 認知症高齢者の看護② 認知症の人の看護(中村) 第13回 認知症高齢者の看護③ 事例検討(中村) 第14回 災害時の看護(杉淵) 第15回 試験・まとめ(杉淵)						講義 講義 講義 校内実習 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 グループワーク 講義・グループワーク 筆記試験
成績評価	・方法 筆記試験 八木先生:筆記試験 30点(講義後の課題提出状況により筆記試験から減点します) 中村先生:筆記試験 25点 橋本:筆記試験 10点 杉淵:筆記試験 35点 ・基準 本校の基準に沿って評価します。						
事前課題・留意点	・事前課題 これまでの授業の振り返りをして講義に臨みましょう。 ・留意点 第4回の校内実習に関する課題や準備については、事前に説明します。						
テキスト・必要物品	・テキスト 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 大塚真理子 カラー写真で学ぶ 高齢者の看護技術 医歯薬出版株式会社 堀内ふきら ナーシンググラフィカ 高齢者看護の実践 メディカ出版 ・必要物品 校内実習で使用する物品のセッティングに協力してください。						
参考文献	系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院						

授 業 概 要

科目名	老年看護学Ⅳ	担当者	橋本圭子 杉淵美里	開講時期	2年後期	単位時間	20時間 /1単位
	ディプロマポリシーで目指す力		実践する力 思いやる力 責任と役割を果たす力 看護を探究する力				
学修内容	老年病の発症・悪化により医療的処置を受ける高齢者の病状の回復・安定を目指した看護方法を、事例を通して学ぶ。また、介護する家族のエンパワーメントを理解するとともに、介護負担を軽減するための看護の方法について学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の治癒過程における看護方法について理解する。 2. 健康障害を持つ高齢者と家族への看護方法について学ぶ。 3. 高齢者の特徴と事例の個別性を踏まえ看護の方向性を考える。 						
授業計画	授業テーマ				方法（形成評価等を含む）		
	第1回	ガイダンス		杉淵	講義		
	第2～9回	運動機能障害のある高齢者の看護			講義とグループワーク		
		第2～4回：橋本 第5～9回：杉淵					
	第10回	試験(45分)・まとめ		杉淵	筆記試験		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験60点 課題への取り組み 40点 ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 夏季休業中にポートフォリオを作成してもらいます。 ・留意点 事前学習をして授業に臨みましょう。 						
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 ・必要物品 						
参考文献	系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院 ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実際 メディカ出版						

授 業 概 要

科目名	小児看護学Ⅰ	担当者	大石祐子 柳原泰子	開講時期	2年前期	時間単位	30時間 1単位	
ディプロマポリシーで目指す力			実践する力・責任と役割を果たす力・看護を採求する力					
学修内容	<p>新生児から思春期、青年期までの小児期は成長発達が著しい。成長発達は自然なものであると同時に一定の法則があり、その原理原則に即している。発達原則を踏まえ、加えて子どもが育つより良い環境を理解し、環境の一つである親や家族、地域などの社会のあり方を考えたい。そして、看護師として、健康な子どもの日常生活での関わりについて、自立に向け各段階で発達を促す支援方法を学習する。また、言語の未発達から自ら訴えることが不十分な子どもの身体的、精神的変化を早期に捉え観察するフィジカルアセスメントについても学習する。</p>							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 小児看護の理念や特質、考え方を理解する 2) 成長発達の段階と生活援助、支援の仕方を理解する 3) 成長発達の原理原則を理解し、評価の意味と方法を理解する 4) 子どものフィジカルアセスメント方法を理解する 5) 子どもにとっての家族や社会の特徴とアセスメントを理解する <p>【看護技術の卒業時の到達レベル】 7排泄援助（小児オムツの当て方）：演習/1モデル人形もしくは学生間で単独で実施できる、50バイタルサインの測定・51身体計測・52フィジカルアセスメント（乳幼児の観察）：演習/1モデル人形もしくは学生間で単独で実施できる</p>							
授業項目	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）	
	第1回：子どもとは・小児看護の特徴と理念（大石）						講義	
	第2回：子どもの成長発達の特徴と原理（大石）						講義	
	第3回：乳児期の成長発達の特徴と援助（柳原）						講義	
	第4回：幼児期の成長発達の特徴と援助（柳原）						各期の発達段階の特徴と援助について、事前学習あり。また、第6回講義後にフィールドワークを予定している。	
	第5回：学童期の成長発達の特徴と援助（柳原）							
	第6回：思春期・青年期の成長発達の特徴と援助（柳原）							
	第7・8回：乳幼児期の子どもの成長発達を促す生活援助と支援 ／子どもの事故・外傷（大石）						グループワーク・講義	
	第9回：子どもと家族の特徴とアセスメント（柳原）						講義	
	第10回：子どものアセスメントに必要な技術（柳原）						講義	
	第11,12回：子どもの身体計測とバイタルサイン測定（大石）						演習	
	第13,14回：子どもの身体計測とアセスメント：ロールプレイ（大石）						ロールプレイ発表：グループ毎	
	第15回：試験・まとめ（柳原）						筆記試験・講義	
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験・取り組み姿勢・レポート(大石60%、柳原40%) ・基準 本校の基準に沿って評価する 							
事前課題	<ul style="list-style-type: none"> ・『乳幼児の発達と保育』、『目で見る子どもの保健 予防・対応編』のDVD視聴 ・小児各期の成長・発達段階について、事前学習したものを活用して授業を行います。 ・みなさんが子どもの頃を思い出しながら、成長発達段階や環境について考えていきましょう。 ・子どもが健やかに育っていく環境を理解するために、現代の子どもに関するニュースや時事問題に関心をもちましょう。 ・フィールドワークは、出身保育園・幼稚園または近隣の保育園へ自らアポイントメントをとり、夏季休暇中に2日間訪問します。 							
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔1〕 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔2〕 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働省 ・必要物品 母子手帳 							
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> 乳幼児の発達と保育 DVD vol.1～3 目で見る子どもの保健 予防・対応編 DVD vol.2 成長発達の段階と生活援助、支援の仕方を理解する ナーシンググラフィカ 小児の疾患と看護 小児看護学② メディカ出版 							

授 業 概 要

科目名	小児看護学Ⅱ	担当者	久保田 晃 増井 礼子	熊谷 敦之 伊藤 裕	開講時期	2年前期	時間 単位	20時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力			看護を実践する力・看護を探求する力					
学修内容	小児期は、遺伝疾患、染色体異常、妊娠や出生時の影響などにより、成人期には見られない特有の疾患がある。また、成長発達途上では身体的特徴により病態や治療が新たな問題やその後の発達に影響を及ぼす事がある。さらに、発達途上の小児の理解力やコミュニケーション力は未熟なため、罹患した事や治療を継続する事が、その後の心理社会面に影響を与える場合もある。そのため、小児期の身体的成長の特徴を理解し、形態機能の特徴を踏まえて小児期にある代表的疾患とメカニズム、治療について理解する必要がある。看護師は、言葉では訴えられない小児をよく理解し、異常の早期発見、予防に努めるために病態と治療についての知識を深めていく必要がある。							
到達目標	1) 其々の系統における代表疾患を理解する 2) 疾患の特徴的メカニズムを理解する 3) 疾患の治療について理解する							
授業項目	授業テーマ				方法（形成評価等を含む）			
	第1回： 新生児疾患（伊藤）				講義			
	第2回： 血液疾患（伊藤）				講義			
	第3回： 循環器疾患（久保田）				講義			
	第4回： 呼吸器、消化器疾患（久保田）				講義			
	第5回： 免疫疾患・膠原病・アレルギー疾患（増井）				講義			
	第6回： 感染性疾患（増井）				講義			
	第7回： 内分泌疾患・発達障害（増井）				講義			
	第8回： 小児医療の特殊性、遺伝子・染色体疾患（熊谷）				講義			
	第9回： 神経系疾患（熊谷）				講義			
	第10回： 腎疾患（熊谷）				講義			
成績評価	・方法 筆記試験（久保田20%、増井30%、熊谷30%、伊藤20%）、取り組み姿勢 ・基準 本校の基準に沿って評価する							
事前課題 留意点	講義の前には、事前学習としてテキストを熟読して出席しましょう。 小児期の心身は、未熟で発達途上にあるため疾患に罹患しやすいという特徴があります。また、小児期特有の疾患や治療もありますので基本的な形態機能学、病態生理治療論などの既習科目は土台として学習して臨みましょう。							
テキスト	・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔1〕 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔2〕 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院							
参考文献	ナーシンググラフィカ 小児の発達と看護 小児看護学① メディカ出版 ナーシンググラフィカ 小児の疾患と看護 小児看護学③ メディカ出版							

授 業 概 要

科目名	小児看護学Ⅲ	担当者	大石祐子 寺岡智子	開講時期	2年後期	時間単位	20時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力・思いやる力・責任と役割を果たす力・地域社会に貢献する力					
学修内容	子どもは発達途上にあり、自己表明や健康管理などの力が未熟なため、より良く育つ環境が整えられることが求められる。そのため、小児看護の対象は健康、不健康を問わず全ての小児とその家族である。看護師は、子どもたちの持つ4つの権利を守り、最善の利益が得られるよう努力する責務がある。子供たちが育つ家庭や保育園、学校、病院は勿論、地域などの様々な場に他職種が連携して活躍している。其々の場における看護の特徴と役割を学び、少子高齢社会での子育て支援などについても関心を広げたい。合わせて、小児の健全な発育のために、社会が支え護る事故防止、虐待防止、養育支援などの法律や制度について学習を深めたい。						
到達目標	1) 疾病や障がい、入院や治療が小児や家族に与える影響と看護を理解する 2) 様々な場での小児看護の必要性和役割を理解する						
授業項目	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1回：病気・障害をもつ子どもの看護（寺岡）						講義
	第2回：病気・障害をもつ子どもと家族の看護（寺岡）						講義
	第3,4回：子どもの疾病の経過と看護（寺岡）						講義
	第5回：子どもと家族を取り巻く社会－母子保健活動（保健師）						講義
	第6回：子どもと家族を取り巻く社会 －地域の小児保健・福祉／子どもの虐待（保健師）						義講
	第7回：病院における子どもと家族の理解と看護（大石）						講義
	第8,9回：地域・在宅で医療ケアを必要とする子どもと家族の看護（大石）						講義・演習
	第10回：試験・まとめ（大石）						筆記試験・講義
成績評価	・方法 筆記試験（大石40%、寺岡30%）、演習の取り組み・レポート（大石30%） ・基準 本校の基準に沿って評価する						
事前課題	皆さんの生活の中で見かける子どもや家族の様子に関心を寄せましょう。子どもに関する新聞の記事やテレビの話題に目を向け、現代の子どもたちを取り巻く環境について看護学生として考えてみましょう。						
テキスト	・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔1〕 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔2〕 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院 写真でわかる 小児看護技術アドバンス インターメディカ ・必要物品 母子手帳						
参考文献	ライフヒストリー重症心身障害児 英太郎くんの場合 DVD 目で見る子どもの保健 予防・対応編 DVD vol.2 ナーシンググラフィカ 小児の疾患と看護 小児看護学② メディカ出版						

授 業 概 要

科目名	小児看護学Ⅳ	担当者	大石祐子 柳原泰子	開講時期	2年後期	時間単位	20時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力・思いやる力・責任と役割を果たす力・看護を探求する力					
学修内容	<p>小児期は身体的未熟さに加え、自分の感情や意志などを十分に訴えることができず、疾病の理解もできないままに苦痛にさらされていることがある。周囲の大人や医療従事者が気づき、見守り回復を支えることが重要である。そのため看護師は、小児期に特有な疾患や症状、その発生のメカニズムや影響を理解して家族を含め安全で安楽、安心な生活を提供できるようアセスメントし援助する必要がある。具体的には、小児期の疾患、治療、検査、処置に伴う影響を理解し、療養生活の中にも成長発達を促す援助方法を学習する。また、小児と家族を支え継続的に看護を提供できる繋がりを理解し、看護展開についてシミュレーションする。</p> <p>【看護技術卒業時の到達目標】56検査の介助：演習/1モデル人形もしくは学生間で単独で実施できる。20整容：演習/1モデル人形もしくは学生間で単独で実施できる</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 子どもの特徴的な症状と看護について理解する 2) 検査・処置を受ける子どもの看護について理解する 3) 子どもと家族への看護、継続看護について理解する 4) 子どもの看護過程展開を理解する 						
授業項目	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1・2回： 子どもに特徴的な症状と看護（大石）						講義
	第3回： 検査・処置を受ける子どもの看護（柳原）						講義
	第4,5回： 子どもの検査・処置に伴う援助（柳原）						講義
	第6回： 子どもの検査・処置に伴う援助：ロールプレイ（柳原）						演習 ロールプレイ発表：グループ毎
	第7回： 症例に必要な看護を考える（大石）						講義・演習
	第8回： 症例に必要な看護を考える：グループワーク（大石）						演習
	第9回： 症例に必要な看護を考える：グループワーク発表（大石）						演習
	第10回： 筆記試験・まとめ（柳原）						筆記試験
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験（大石20%、柳原40%）、演習の取り組み、レポート（大石30%、柳原10%） ・基準 本校の基準に沿って評価する 						
事前課題	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を十分に復習して読んでください。 ・小児の身体計測とアセスメントの演習では事前学習をもとに演習、ロールプレイを行います。 ・国家試験問題の状況設定問題などの理解に繋がる分野です。イメージしながら学習しましょう。看護計画の立案は、疾病、発達段階、看護過程などの知識の活用が必要です。3年次の小児看護実習に向けての準備となりますので果敢にトライしましょう。 						
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔1〕 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔2〕 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院 写真でわかる 小児看護技術アドバンス インターメディカ 						
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ナーシンググラフィカ 小児の疾患と看護 小児看護学② メディカ出版 DVD 子どもの病気と看護技術 vol.2 採血・輸液を受ける子どもへの援助 DVD 子どもの病気と看護技術 vol.3 骨髄穿刺・腰椎穿刺を受ける子どもへの援助 DVD 小児看護技術 第2版 vol.2 プレパレーション 						

授 業 概 要

科 目 名	母性看護学Ⅰ	担 当 者	増田瑞枝 伊藤みどり 保健師	開 講 期 間	2年次前期	単 位 時 間	20時間 /1単位
	ディプロマポリシーで目指す力	探求する力	思いやる力	実践する力			
学 修 内 容	母性看護学の基盤となる概念「リプロダクティブヘルス/ライツ」について理解し、女性の一生を通じた健康の保持・増進・次世代の健全な育成に必要な知識と看護の必要性について学ぶ。多様な性の捉え方を理解し、性と生殖に関する倫理的課題について考えていく。母子を取り巻く現代の社会的変化をふまえた母性・父性・親性について、またよりよい母子関係を育むために必要な知識について学んでいく。						
到達 目 標	① 母性看護の概念が理解できる ② 人間の性と多様な性の捉え方について理解できる ③ ライフサイクル各期における対象の特徴と看護の必要性が理解できる ④ 母性看護の倫理について自己の考えグループ間で共有できる ⑤ 母子保健事業の実際を知り現状と課題が理解できる ⑥ 母性・父性・親性・母子関係・愛着形成について自己の考えがもてる						
授 業 計 画	授業テーマ						方 法 (形成評価等を含む)
	第1回	母性看護の基盤となる概念	人間の性	セクシュアリティ	増田	講義	
	第2回	母性・父性・親性とは			増田	講義 ミニレポート①	
	第3回	母性とは	母子関係と愛着		増田	講義	
	第4回	女性のライフサイクルと健康	思春期の健康と看護		伊藤	講義	
	第5回	成熟期の健康と看護①			伊藤	講義	
	第6回	成熟期の健康と看護②			伊藤	講義	
	第7回	更年期・老年期の健康と看護			伊藤	講義	
	第8回	母性看護の現状と課題	母子保健事業		保健師	講義	
	第9回	母性看護における倫理的課題		グループワーク	増田	講義	
		出生前診断				ミニレポート②	
	第10回	学科試験	まとめ		増田		
成 績 評 価	・方法 筆記試験：伊藤先生(40点) 増田(40点) ミニレポート(10点×2) 授業の取り組み姿勢 ・基準 筆記試験：本校の基準に準ずる ミニレポート：授業の学びを踏まえて自己の考えを述べること						
予 備 読 書 ・ 留 意 点	・事前課題 母子・女性を取り巻く現状や問題に関するニュース・新聞記事を集めそれに対して考察する (記事に興味を持った理由とともに考察する。ポートフォリオ形式でまとめておく) ・留意点 初めて学ぶ母性看護学です。興味関心をもって考えることを大事にしてほしいです。 授業後は、テキストの関連箇所を読み、理解を深めていってください。						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト ①森恵美著 系統看護学講座 専門分野 母性看護学概論 母性看護学① 医学書院 ②構成統計協会 国民衛生の動向 厚生統計協会 ・必要物品：20P程度のポケット式クリアファイル						
参 考 文 献							

授 業 概 要

科目名	母性看護学Ⅱ	担当者	實石江里子 森下倫江 黒田健治	開講時期	2年次前期	単位時間	20時間 /1単位
	ディプロマポリシーで目指す力	実践する力	探求する力	思いやる力			
学修内容	「子を産み育てる特性」を発揮していくために必要なマタニティサイクル(妊娠期・分娩期)にある人々の看護について学ぶ。安全な分娩を迎えるための看護に必要な妊娠期の身体的・心理的・社会的変化を理解する。その上で妊婦及び胎児のアセスメント、妊婦の保健指導、家族を含めた看護について学ぶ。また分娩期の産婦・胎児について理解し、安全で満足度の高い分娩となるような看護について学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 妊娠期における母子の生理的変化をふまえ、母子の健康状態のアセスメントについて理解する ② 妊婦の親役割りや家族の新しい役割り獲得の準備について理解する ③ 母子の健康保持・増進のためのセルフケア能力を高める援助について理解する ④ 分娩期における基礎的知識を理解する ⑤ 分娩期における正常な経過を理解する ⑥ 安全で満足度の高い分娩となるよう看護者の役割りを考える 						
授業計画	授業テーマ					方法 (形成評価等を含む)	
	第1回 妊娠の定義・分娩の定義 妊娠期の身体的特性①	實石				講義	
	第2回 妊娠期の身体的特性② 心理社会的特性と変化	實石				講義	
	第3回 妊娠による母体の変化と生理的ニーズの変化①	實石				講義	
	第4回 妊娠による母体の変化と生理的ニーズの変化②	實石				講義	
	第5回 マイナートラブルと保健指導	實石				講義	
	第6回 分娩の要素と分娩の経過	森下				講義	
	第7回 産婦の心理・社会的変化と看護 分娩期の看護の実際	森下				講義	
	第8回 産婦・胎児・家族のアセスメント 産婦と家族の看護	森下				講義	
	第9回 妊娠期・分娩期の異常	黒田				講義	
	第10回 妊娠期・分娩期の異常と看護	實石				講義	
	第11回 学科試験(45分)	實石					
成績評価	<p>・方法 筆記試験:森下先生(40点) 實石(50点) 黒田(10点) 授業の取り組み姿勢</p> <p>・基準 筆記試験:本校の基準に準ずる</p>						
留意点	<p>・留意点 テキストにそって授業をします。実際の分娩をイメージしながら学んでいきましょう。(森下) 形態機能学「子孫を残す」の講義内容を振り返り授業に臨んでください。(實石) 授業後には該当箇所のテキストを読み理解を深めてください。(黒田)</p>						
テキスト	<p>・テキスト</p> <p>①森恵美著 系統看護学講座 専門分野 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院 ②平濱恵美子他監修 写真でわかる母性看護技術 インターメディカ</p>						
参考文献	<p>①小林康江他著 ナーシンググラフィカ 母性看護学② 母性看護の実践 メディカ出版 ②森恵美著 系統看護学講座 専門分野 母性看護学概論 母性看護学① 医学書院</p>						

授 業 概 要

科目名	母性看護学Ⅲ	担当者	杉山恵美子 實石江里子	開講時期	2年次後期	単位時間	25時間/ 1単位
	ディプロマポリシーで目指す力	実践する力 探求する力 思いやる力					
学修内容	「子を産み育てる特性」を發揮していくために必要なマタニティサイクル(産褥期・新生児期)にある人々の生理的变化を理解し、産褥期・新生児期が順調に経過するために必要な看護について学んでいく。母子相互作用・良好な母子関係・次世代を育成するための母子を取り巻く家族への看護についても考えていく。産褥期・新生児期におこりやすい異常とその看護についても学んでいく。自然災害が増加している現在、災害発生時に、周産期の女子とその家族へ看護者としてどのような支援を行なっていくか、災害時の看護についても考えていく。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 産褥期の身体的・心理的・社会的特徴を理解する ② 産褥期のおこりやすい異常について理解する ③ 産褥期における観察の視点を理解し、必要な看護を考える ④ 新生児の生理的特徴をふまえ子宮外環境への適応に必要な看護を理解する ⑤ 新生児の観察の視点を理解する ⑥ 新生児に起こりやすい異常を学習し、必要な看護を考える ⑦ 周産期の女子・家族への災害時の必要な看護について考える 						
授業計画	授業テーマ					方法 (形成評価等を含む)	
	第1回	「次世代を育成する看護」ガイダンス 周産期とは	實石	講義DVD視聴			
	第2回	産褥期ガイダンス 産後の定義と看護の基本	杉山	講義			
	第3回	産褥期の身体的変化	杉山	講義			
	第4回	産褥期の心理的变化	杉山	講義			
	第5回	産褥期の診断・アセスメントと看護	杉山	講義			
	第6回	産褥期に起こりやすい異常と看護	杉山	講義			
	第7回	新生児の生理的特徴①	實石	講義			
	第8回	新生児の生理的特徴①	實石	講義	小テスト		
	第9回	新生児のアセスメント①	實石	講義	小テスト		
	第10回	新生児のアセスメント②	實石	講義			
	第11回	新生児の異常と看護	實石	講義			
	第12回	災害時の看護	實石	GW レポート			
	第13回	学科試験(45分)	實石				
成績評価	・方法 筆記試験:杉山先生(40点) 實石(40点) 事前課題(10点) レポート(10点) ・基準 筆記試験:本校の基準に準ずる						
留意点	事前課題:夏季休暇前に産褥期の看護に必要な基礎的知識の事前課題を提示します。 (ポートフォリオ形式でまとめる。) 留意点 ①母性看護学ⅠⅡの学びを活かし学習を深めていきましょう。 ②次世代を育成するための看護を自分ごととして捉え、学習をしていきましょう。						
テキスト	・テキスト ①森恵美著 系統看護学講座 専門分野 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院 ②平濱恵美子他監修 写真でわかる母性看護技術 インターメディカ						
参考文献	①小林康江他著 ナーシンググラフィカ 母性看護学② 母性看護の実践 メディカ出版 ②森恵美著 系統看護学講座 専門分野 母性看護学概論 母性看護学① 医学書院						

授 業 概 要

科目名	母性看護学Ⅳ	担当者	寶石江里子 増田瑞枝	開講時期	2年次後期	単位時間	25時間/ 1単位
	ディプロマポリシーで目指す力	看護を実践する力		看護を探求する力			
学修内容	<p>「子を産み育てる特性」を発揮していくための看護を考えるために具体的な事例をもちいて看護過程展開に必要な思考方法を学ぶ。妊娠・分娩・産褥期および新生児の看護は継続的に対象を捉えていく力が求められる。母性看護方法ⅠⅡⅢで学んだ既習知識を統合し、対象および家族も含めた看護を事例を通し考え3年次での母性看護実習での看護の実践へと繋げられるようにする。また妊娠期・産褥期・新生児の看護に必要な援助技術を安全・安楽に実施できるよう演習をとおし身につけていく。</p>						
到達目標	<p>① 母性看護過程の特徴が理解できる ② 産褥・新生児の正常経過が理解できる ③ 正常過程の産褥・新生児のアセスメントができる ④ 正常過程の産褥・新生児の看護問題が明確化できる ⑤ 母子一体の看護過程の思考の仕方が理解できる ⑥ 母性に特徴的な援助技術を習得できる</p> <p>卒業時の技術到達レベル：7. 排泄援助(新生児のおムツの当て方)、20. 整容、28. 新生児沐浴・拭拭、51. 身体計測(腹囲・子宮底測定)は指導の下で実施できる</p>						
授業計画	授業テーマ			方法 (形成評価等を含む)			
	第1回	母性看護過程の捉え方 妊娠期・分娩期のアセスメント	寶石	講義個人ワーク			
	第2回	妊娠期・分娩期の経過診断	寶石	講義 GW 発表			
	第3回	妊娠期の援助技術 (レオポルド触診法・腹囲・子宮底の測定) (妊婦体験ジャケット装着してみよう)	寶石	A B 別で演習			
	第4回	産褥1日目・新生児生後1日目までの経過診断① 褥婦視点	寶石	講義 GW 発表			
	第5回	産褥1日目・新生児生後1日目までの経過診断② 新生児視点	寶石	講義 GW 発表			
	第6回	産褥3日目・生後3日目までの経過診断 褥婦・新生児視点	寶石	講義 GW 発表			
	第7回	褥婦・新生児 看護問題の明確化 目標(期待される結果を考える)	寶石	講義 GW 発表			
	第8回	帝王切開術後の褥婦・新生児の経過診断	寶石	講義 GW			
	第9回	新生児の援助技術 沐浴 新生児のおむつ交換 衣服交換	増田	A/B 別で演習			
	第10回	産褥6日目・生後6日目までの経過診断 指導方法の検討	増田	講義 GW 発表			
	第11回	看護援助の実際(退院に向けて 保健指導の実際)	増田	ロールプレイ発表			
	第12回	ロールプレイ発表・および看護援助実施の評価	増田	ロールプレイ発表			
	第13回	学科試験(45分)	増田				
成績評価	<p>・方法 筆記試験：援助技術(40点) 各期経過診断(各10点/計40点) 看護援助実施の評価(20点)</p> <p>・基準 筆記試験：本校の基準に準ずる</p>						
留意点	<p>事前課題：各演習前には手順書を作成する課題を提示します。</p> <p>留意点 ①母性看護学ⅠⅡⅢの学びを活かし学習を深めていきましょう。 ②ロールプレイ前には必要な準備を各グループで行ってください。</p>						
テキスト	<p>・テキスト ①森恵美著 系統看護学講座 専門分野 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院 ②平濱恵美子他監修 写真でわかる母性看護技術 インターメディカ</p>						
参考文献	<p>①小林康江他著 ナーシンググラフィカ 母性看護学② 母性看護の実践 メディカ出版 ②森恵美著 系統看護学講座 専門分野 母性看護学概論 母性看護学① 医学書院 ③ウエルネス看護診断に基づく看護過程 医歯薬出版株式会社</p>						

授 業 概 要

科目名	精神看護学Ⅰ	担当者	平林千鶴 本田久美子 後藤治美	開講時期	2年前期	単 位 間 時 位	25時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力、思いやる力、地域社会に貢献する力					
学 修 内 容	心(精神)の仕組み、発達について理解し、精神の健康と保持増進活動について学ぶ。						
到 達 目 標	① 心(精神)の仕組みと働きについて理解する。 ② 心(精神)の発達過程とそのプロセスで生じる問題について理解する。 ③ 精神の健康の意義について理解する。 ④ 精神の健康に影響する因子を理解する。 ⑤ 暮らしの中で起こりうる精神の問題と、その予防、健康の保持増進活動について理解する。 ⑥ 災害時に生じる心(精神)の変化と、精神保健医療活動について理解する。 ⑦ 看護者に生じやすい心(精神)の問題とセルフケアについて理解する。						
授 業 計 画	授業テーマ						方法 (形成評価等を含む)
後藤	第1回	精神看護学とは何か？ 精神の健康の定義				講義(シンクベシア・ラウンドロビン) 講義(シンクベシア・ラウンドロビン)	
本田	第2～4回	心(精神)の機能と発達 ・心(精神)と情緒の発達 心の仕組みと人格の発達を様々な学説により理解する ・自我の機能 : 自我の構造やはたらき等を理解する ・防衛機制 ・精神力動 ・心の健康に及ぼすストレスの影響				講義	
平林	第5～7回	各発達段階で現れやすい精神の問題 1) 乳幼児～学童期における心と対応について 2) 思春期～青年期における心と対応について 3) 成人期～老年期における心と対応について				講義	
後藤	第8回	精神の健康の保持増進活動と精神医療福祉対策				講義(シンクベシア・ラウンドロビン)	
後藤	第9～10回	家族と精神の健康				講義(シンクベシア・ラウンドロビン)	
後藤	第11回	災害時の精神保健				講義(シンクベシア・ラウンドロビン)	
後藤	第12回	看護者のメンタルヘルス				講義(シンクベシア・ラウンドロビン)	
試験 (後藤)							
成 績 評 価	・方法 筆記試験 課題レポート 参加態度 課題の提出状況 後藤60点 本田先生20点 平林先生20点/100点 ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題 レポート提出。(1年次の春季休暇に、指定したDVDを視聴した感想) 各講義に関する事前課題 (講義前に提示します。) 平林先生: 講義の中間と終了時に振り返りレポートを作成します。 ・留意点						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト ・系統看護学講座 精神看護の基礎 精神看護学 [1] 医学書院 ・系統看護学講座 精神看護の展開 精神看護学 [2] 医学書院 ・系統看護学講座 精神保健福祉 医学書院 ・必要物品						
参 考 文 献	・中井久雄・山口直彦 著: 看護のための精神医学、医学書院						

授 業 概 要

科目名	精神看護学Ⅱ	担当者	田中賢司 村上直人 福島一成 前園親寿	開講時期	2年前期	間 単 時 位	20時間 1単位				
	ディプロマポリシーで目指す力		実践する力								
学修内容	精神疾患に関する基礎的知識と治療に伴う看護について学ぶ。										
到達目標	① 心身症の成り立ちと仕組みについて理解する。 ② 主な精神疾患、症状の成り立ちと仕組み、検査、治療について理解する。 ③ 精神科における主な治療に伴う看護について理解する。										
授業計画	授業テーマ		方法（形成評価等を含む）								
	田中	第1回	精神医療に関わる法・制度	全回講義形式で行う。							
	福島	第2～5回	精神症状と状態像 神経障害・ストレス関連障害・身体表現障害 生理的障害・身体的要因に関連した行動症候群 (摂食障害・睡眠障害・性同一性障害・パーソナリティ障害) 器質的精神障害 (認知症・症状精神病・精神作用物質による精神・行動障害) 心身症								
	村上	第6回	統合失調症の病態生理と治療								
	村上	第7回	気分(感情)障害の病態生理と治療								
	前園	第8～10回	様々な治療における看護 (認知行動療法、生活技能訓練: SSTなど) 薬物療法 電気痙攣療法								
	試験	(後藤)									
成績評価	・方法	筆記試験	福島先生40点 村上先生30点 精神科看護師30点					/100点			
	・基準	本校の基準に沿って評価する。									
事前課題・留意点	・事前課題	夏季休暇中の課題として学習内容を提示します。									
	・留意点	毎回の講義終了後、講義内容と関連する箇所のテキストを読み、理解を深めてください。									
テキスト・必要物品	・テキスト	・系統看護学講座 精神看護の基礎 精神看護学 [1] 医学書院 ・系統看護学講座 精神看護の展開 精神看護学 [2] 医学書院 ・中井久雄・山口直彦 著：看護のための精神医学，医学書院 ・山本勝則・藤井博英ら著：根拠のわかる精神看護技術，メヂカルフレンド社。									
	・必要物品										
参考文献											

授 業 概 要

科目名	精神看護学Ⅲ	担当者	塚本千恵子 橋本圭子 後藤治美	開講時期	2年後期	間 単 時 位	25時間 1単位
	ディプロマポリシーで目指す力		実践する力、思いやる力、責任と役割を果たす力				
学 修 内 容	精神障害を持つ人の人権を尊重し、パートナーシップに基づく治療的関係を構築し、リカバリー(回復)に向けた看護実践に必要な基礎的知識を学ぶ。また、精神看護者として必要な姿勢を養う。						
到達目標	① 精神保健・医療・福祉の歴史の変遷および現在の動向を捉え、精神障害を持つ人が置かれている状況を理解する。 ② 精神障害を持つ人の抱える「生きづらさ」を理解する。 ③ 精神障害を持つ人を支援するための概念を理解する。 ④ 対象とパートナーシップに基づく治療的関係性を構築するための方法を理解する。 ⑤ 対象の精神的安寧を図る関わりについて体験を通して考える。 ⑥ 精神障害を持つ人への看護の基本について理解する。						
授 業 計 画	授業テーマ		方法 (形成評価等を含む)				
	後藤	第1回	精神保健・医療・福祉の歴史の変遷	講義(シンクベアシェア・ラウンドロビン)			
	後藤	第2回	現代社会における精神保健・医療・福祉の現状と 精神看護の課題	講義(シンクベアシェア・ラウンドロビン)			
	後藤	第3回	精神障害を持つ人の「生きづらさ」と回復への支援	講義 (シンクベアシェア・ラウンドロビン)			
	塚本	第4～8回	精神障害を持つ人への看護の基本 1)入院治療の意味 2)精神科における看護 ①病棟環境の整備 ②リスクマネジメント ③身体的合併症に対する看護 ④身体を通じた看護ケア				
	橋本	第9～12回	パートナーシップに基づく治療的関係性の構築 1)コミュニケーションの原則・方法 2)患者・看護師関係で起こる感情体験 3)患者―看護師関係をアセスメントする (プロセスレコードの活用)	講義(シンクベアシェア・ラウンドロビン) 演習 (シミュレーション)			
	試験 (橋本)						
成 績 評 価	・方法 筆記試験 課題レポート 参加態度 課題の提出状況 橋本30点 塚本先生50点 後藤20点/100点 ・基準 本校の規準に沿って評価する。						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題 講義前に事前課題を提示します。 ・留意点						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト ・系統看護学講座 精神看護の基礎 精神看護学 [1] 医学書院 ・系統看護学講座 精神看護の展開 精神看護学 [2] 医学書院 ・山本勝則・藤井博英ら著：根拠のわかる精神看護技術、メヂカルフレンド社 ・系統看護学講座 精神保健福祉 医学書院 ・必要物品						
参 考 文 献							

授 業 概 要

科目名	精神看護学Ⅳ	担当者	土屋幹夫 松永深雪 精神科看護師 後藤治美	開講時期	2年後期	単 位 時 間	20時間 1単位	
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力、責任と役割を果たす力、地域社会に貢献する力						
学 修 内 容	精神障害を持つ人の健康状態に応じた看護について理解し、リハビリ（回復）を支援する看護を学ぶ。 また、事例を用いて対象をアセスメントし、必要な看護を導き出す思考を養う。							
到達目標	① 精神障害を持つ人を理解するための観察とアセスメントの視点について理解する。 ② 主な精神症状と症状に応じた看護を理解する。 ③ 精神障害を持つ人の家族の看護について理解する。 ④ 様々な精神看護の場における看護の役割と支援について理解する。 ⑤ 事例における看護過程を展開し、看護問題を捉え、必要な看護を導き出す思考を養う。							
授 業 計 画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）	
	土屋 第1～5回	対象を捉える観察とアセスメントの視点 1) 観察の目的と方法 2) 精神科アセスメントと生活状況のアセスメント 主な精神症状に応じた看護 幻覚・妄想、無為・自閉、抑うつ、躁、水中毒など 精神障害を持つ家族への看護					講義	
	看護師 第6～7回	地域生活を支援する 1) 退院に向けての支援 2) リハビリテーションの概念 3) 地域における生活支援の方法および関連法規					講義	
	松永 第8回	リエゾン看護					講義	
	後藤 第9～10回	事例：統合失調症患者の看護					演習（グループワーク・ジグソー法）	
	試験（後藤）							
成 績 評 価	・方法	筆記試験 土屋先生50点 精神科看護師20点 後藤30点／100点 第9～10回の演習では、事前自己課題とグループワークの成果物を評価対象とする。						
	・基準	本校の基準に沿って評価する。						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題	第9～10回の演習に関しては、冬季休暇中の課題として提示します。						
	・留意点							
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト	・系統看護学講座 精神看護の基礎 精神看護学 [1] 医学書院 ・系統看護学講座 精神看護の展開 精神看護学 [2] 医学書院 ・山本勝則・藤井博英ら著：根拠のわかる精神看護技術、メヂカルフレンド社。 ・系統看護学講座 家族看護学 医学書院						
	・必要物品							
参 考 文 献								

授 業 概 要

科目名	総合医療論	担当者	中村 利夫 友山 眞	開講時期	3年前期	単位時間	15時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		責任と役割を果たす力					
学修内容	保健医療に関する知識を修得し、看護師としての基本的態度を身につける。						
到達目標	現代の保健・医療・福祉の抱えている問題点とその背景を総合的に知ることによって、専門職として社会に貢献する方向性、視点について理解する。						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回：講義	医学、医療とは何か、生命について考える。	（友山）	講義形式（配布資料等）			
第2回：講義	医学史						
第3回：講義	健康・病気・医学の体系、病気の原因・症状						
第4回：講義	病気の診断と治療						
第5回：講義	病気の予防						
第6回：講義	新しい医療システム	（中村）	試験				
第7回：講義	生命へのアプローチ、健康教育と衛生統計						
第8回：試験	試験（45分）						
成績評価	・方法	筆記試験、出席状況					
	・基準	本校の基準に沿って評価する。					
事前課題・留意点	・事前課題						
	・留意点	受講生への要望：自主的な勉学を望みます。（中村）					
テキスト・必要物品	・テキスト	系統看護学講座 別巻 総合医療論		医学書院			
	・必要物品						
参考文献	系統看護学講座 専門基礎 医療概論 医学書院						

授 業 概 要

科目名	医療安全と看護管理 (医療安全・看護倫理)	担当者	後藤治美 石川 嘉子 増田瑞枝	開講時期	3年次前期	単位時間	20/30時間 1単位
	ディプロマポリシーで目指す力		看護を探究する力	責任と役割を果たす力			
学修内容	<p>「看護倫理」は私たち看護師が看護を行ううえで守るべき「道徳」や「規範」であり質の高い看護を提供するための「考え」や「行動の指針となるものである。「看護職の倫理綱領」をもとに日常の看護活動における倫理的ジレンマを伴う事例をグループワークを行い倫理的課題の最適解を見出す考え方を学ぶ。</p> <p>医療の高度化・専門化に伴い医療現場はさまざまなリスクが存在している。医療者にとって安全管理は重要な概念である。講義では「医療安全」の基本的知識および看護職の責務と役割、医療現場における危険予知回避・事故防止などの安全対策の理論と方法について演習を交えながら学んでいく。</p>						
到達目標	<p>①医療安全の基本的知識を理解し、医療安全教育の必要性を認識するとともに、看護・医療事故予防に必要な能力・行動について考えることができる。</p> <p>②実際の場面や事例より、それぞれに具体的な対策を考えることができる。</p> <p>③看護倫理に関する基本的知識と倫理的意思決定を行なうための枠組みを習得する。</p>						
授業計画	授業テーマ						方法 (形成評価等を含む)
	第1回 専門職に求められる倫理 看護倫理とは	増田					講義
	第2回 実習場面で経験した、または感じた倫理上の課題の検討	増田					グループワーク
	第3回 グループワーク発表	増田					発表会
	第4回 看護師における倫理的判断に必要な知識 看護の倫理原則 看護実践上の倫理的概念	増田					講義
	第5回 医療安全と過失 看護事故の構造と防止対策 専門職としての責務と看護師の法的責任	後藤					講義
	第6回 医療安全の基礎	石川					講義
	第7回 危険予知トレーニング	石川					グループワーク
	第8回 チームステップス・医療メディエーション	石川					講義・グループワーク
	第9回 実習場面での「ヒヤリハット体験」を共有化 「ヒヤリハット体験」から医療安全を守るためにどのように行動するか	後藤					グループワーク
	第10回 筆記試験 グループ意見共有	後藤					発表会
	※講義予定は前後する場合がありますので、ご了承ください。						
成績評価	<p>・方法 「看護管理」単元と合算して100点となる、 筆記試験：医療安全・看護倫理に関する基本的な知識の確認 (石川先生25点、増田25点) レポート テーマ「安心・安全な医療・看護を提供するため、どんな看護専門職を目指すか」(後藤20点)</p> <p>・基準 筆記試験：本校の基準に準ずる</p>						
事前課題	<p>・事前課題 「看護者の倫理綱領」をじっくりと読んでから授業に出席すること。課題詳細は授業内で説明する。 事前課題のレポートをもとにグループワークをおこないます。各自準備をして臨んでください。(増田)</p>						
テキスト	<p>・テキスト</p> <p>① 系統看護学講座統合分野「看護管理」看護の統合と実践① 医学書院 ② 系統看護学講座統合分野「医療安全」看護の統合と実践② 医学書院 ③ 系統看護学講座別巻「看護倫理」 医学書院 ④ 「よくわかる看護者の倫理綱領」 照林社</p>						
参考文献	<p>茂野香おる他：系統看護学講座専門分野Ⅰ「看護学概論」基礎看護学① 医学書院</p>						

授 業 概 要

科目名	医療安全と看護管理 (看護管理)	担当者	山梨 美鈴	開講時期	3年前期	単位時間	10/30時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		看護を実践する力・探求する力・責任と役割を果たす力					
学修内容	看護管理の基本を理解する。 よりよい看護を提供するための資源やしぐみについて知り、組織の一員として看護管理を考える。						
到達目標	看護管理の基本がわかり、必要な資源や組織の一員としての看護管理について理解を述べることができる。						
授業計画	授業テーマ	方法(形成評価等を含む)					
	1. 看護管理とは 看護を取り巻く諸制度 看護職と専門性 医療制度	講義					
	2. 看護ケアのマネジメント チーム医療 リーダーシップ コミュニケーション	講義 ワーク					
	3. 看護サービスのマネジメント キャリア形成 キャリアディベロップメント	講義					
	4. 看護サービスのマネジメント 看護サービス提供のしくみづくり 組織化 看護ケア提供システム	グループ演習					
	5. 看護サービスのマネジメント 労働環境 安全管理 マネジメントに必要な知識と技術	グループ演習					
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験(30点分) 出席状況を加味する ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 ・留意点 参加型の授業となるよう心掛けるので、積極的に授業に取り組んでいただきたい。 						
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 系統看護講座 統合分野 看護管理 看護の統合と実践 医学書院 ・必要物品 						
参考文献							

授 業 概 要

科目名	国際看護と災害看護 「国際看護」	担当者	那須 ダグバ 潤子	開講時期	3年後期	単位時間	8/20時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		看護を実践する力・思いやる力・地域社会に貢献する力					
学修内容	グローバル化する時代に必要とされる看護師の能力とは何か。本講義では、映像、資料などを手掛かりに、日本および国際社会に生じている諸問題について考えるほか、グローバルヘルスの現状と課題、国際保健政策、国際看護活動、外国人患者への看護などを学ぶ。世界の人びとの保健医療にかかわる現状を理解するとともに、国内外問わず異文化理解が重要であることを理解し、国際力豊かな看護師として成長するための基礎を養う。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国内外での国際看護活動をするための基礎的な方法を理解することができる。 2. 世界の保健医療の現状および健康問題と、国際看護活動における看護職の役割について理解できる。 3. 世界の多様性を考慮した看護実践について、自分の考えを述べることができる。 						
授業計画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
第1回	1. 世界の多様性、国際看護の概要 2. 異文化理解と看護						パワーポイントに沿った口演 参考資料の提示と説明 質疑応答 ディスカッション
第2回	3. 開発途上国と貧困 4. 看護の国際協力						映像学習 授業評価アンケートの実施
第3回	5. 在日外国人の看護 6. 医療通訳						
第4回	7. ジェンダーと差別 8. グローバル化時代の看護						
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 課題レポート ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 世界の動向について、ニュース、新聞から情報を得ておく。 ・留意点 グループワーク、ディスカッションを行う場合は全員が発言し、積極的に講義に参加すること。普段から国内外の複数の新聞を読み、世界の動向を把握する習慣をつけることを推奨する。 						
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 授業中に適宜資料を提示する。 ・必要物品 パソコン プロジェクター、スピーカー DVD映写機 						
参考文献	授業中に適宜資料を提示する。						

授 業 概 要

科目名	国際看護と災害看護 「災害看護」	担当者	加藤 温美	開講時期	3年前期	単位時間	12/20時間 1単位
	ディプロマポリシーで目指す力	看護を実践する力・思いやる力・地域社会に貢献する力					
学修内容	災害という突然の緊急事態に対し、人としてまた医療者として何を優先してどう動くべきかを考える。二つとして同じ災害は無いが基本のコンセプトは同じである。その学びより防ぎえた災害死の回避を目標に復興までの長い道のりを非日常に陥った被災者の為に、変化していく災害フェーズに対応しながら自分に何ができるのかを考え、どんな行動ができるのか、そしてあの日を忘れない(震災の日)寄り添える災害看護を学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1、災害時の基本のコンセプトCSCATTTを理解する。 2、実際の被災地での支援と、多職種連携の災害医療を理解する。 3、災害フェーズによる健康被害と看護の役割を理解する。 4、心のケアを含めた災害看護の学びより自分のこれからの看護に結び付けて考えることができる。 5、実災害時に役立つよう、1次トリアージを理解する。 						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	<p>第1回・災害の種類と災害サイクル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CSCATTT① ・被災地の話 <p>第2回・災害サイクルと看護ニーズ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害による健康被害 ・CSCATTT② ・災害急性期・病院での被災を考える <p>第3回・災害サイクルと看護ニーズ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害慢性期(復興期)の健康被害・避難所の現状 ・被災地の話 <p>第4回・身近な物を代用した応急処置と災害における心のケア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被災者、遺族、支援者の心境について考える ・被災地の話 <p>第5回・災害医療の3T</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1次トリアージの実践とトリアージタグの記載 ・優先順位について・被災地の話 <p>第6回 試験 ・災害キーワードの振り返り</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・教科書 ・パワーポイント ・動画 ・質疑応答 ・アンケート ・グループワーク ・実技 			
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 指定したページのテキストの熟読。アンケート ・留意点 災害に対応できる力は平時からの行動ができていないと災害時にはできません。その中で、できない事わからない事を恥じる事なく発信できることを災害時にも繋げられるように、質問しながら授業を進めていきます。皆さんの知りたい事も毎回アンケートとっていきます。私の被災地での経験も伝えていきます。 						
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト ナーシング・グラフィカ ・必要物品 第4回 スーパーの袋、長袖のパーカー 第5回 秒付き腕時計(持っている人のみで可) 練習用トリアージタグ(全員分)この日は全員動きやすい服装で。 						
参考文献	<ol style="list-style-type: none"> ①DMAT標準テキスト(改定第2版)へるす出版 ②東京くらし防災 東京都 ③災害現場のトリアージと応急処置 日本看護協会出版会 ④多職種連携で支える災害医療 医学書院 ⑤日本DMAT養成研修資料 ⑥被災地で活動するナースの為に災害派遣シミュレーションQ&A 						

授 業 概 要

科目名	看護研究	担当者	亀澤 ますみ 吉田 五百枝	開講時期	3年次後期	単位時間	30時間 1単位
	ディプロマポリシーで目指す力		看護を探究する力:これまでの学習経験を踏まえて自己の看護観を明確				
学修内容	看護専門職者として質のよい看護の提供を追及するための研究の必要性を学ぶ。研究における倫理的態度について理解し、自己の看護実践を振り返り、自己の課題と対峙ながら行うことで、その人に合った看護を追求していくための基礎知識を学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究の意義と必要性を理解し、研究への興味関心を高める 2. 看護研究の分野と研究方法について知る。 3. 文献学習の必要性について理解する。 4. 看護研究におけるモラルと倫理的配慮について考える。 5. ケーススタディの意義と方法を学ぶ。 6. 3年次領域別実習の中からエピソードを記述し振り返ることで、糸口となる問題を認識し科学的に論じる。 7. 問題の科学的解明に向けて、適切な文献を基に考察する。 8. ケーススタディの一連を学び、収録・抄録を作成し、他者に伝わるよう発表する。 						
授業計画	授業テーマ						方法 (形成評価等を含む)
	<研究の基礎>						
	第1回: 講義	看護研究の意義と研究の種類					
	第2回: 講義	看護研究論文を読む				ICTを活用しながら文献検索の方法を学び実施する	
	第3回: 講義	看護研究における倫理的配慮と文献レビュー					
	第4回: 講義	エピソード記述とリサーチクエスションの実際					
	第5回: 講義・試験	ケーススタディ計画書作成について・試験				研究の基礎の範囲で小テストする	
	<ケーススタディ>						
	第1回: 講義・演習	ケーススタディの意義と方法				第1～5回 講義・グループワーク	
	第2回: 講義・演習	ケーススタディの進め方					
	第3回: 講義・演習	看護実践と論文の構成					
	第4回: 講義・演習	論文の構成と文献検討				担当教員を決定し、レポート作成準備	
	第5回: 講義・演習	リサーチクエスションと論文の構成				担当教員毎のグループで相談・助言しながら進める	
	第6～10回: 演習	ケーススタディの作成 発表					
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法: 筆記試験(30%:研究の基礎)ケーススタディ(70%:担当教員) ・基準: 本校の基準に沿って評価する。 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 臨地実習での自己の課題やエピソードなどケーススタディの基となる事を記述しておく。 研究論文に触れ、論文の構成や記述の方法について慣れておく。 ・留意点 ケーススタディは、自己の実践を振り返り、看護における自己の課題や改善点を明確にする事が求められるので、真摯に自己と対峙する姿勢が求められる。そのためにも、研究における倫理的な態度について理解を深めることが重要である。 						
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 坂下玲子: 系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院 森田夏実他: 看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 照林社 ・必要物品 開始後に指示する文献 						
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> 南 裕子編: 看護における研究、日本看護協会出版会 川村佐和子編: ナーシンググラフィカ19 看護研究 メディカ出版 						

授 業 概 要

科目名	総合看護実践	担当者	西川 はるみ 後藤 治美	開講時期	3年次後期	単位時間	30時間 /1単位
	ディプロマポリシーで目指す力		実践する力・看護を探究する力				
学修内容	既習の知識、技術を活用し、また自己の看護観を大切にしながら、複数受け持ち時の看護をその場の優先順位を判断しながら、実践できる能力を養う。ここから看護専門職となる人としての自己の看護実践の課題を明らかにし、臨床現場へ出る自分をイメージすることができるようにする。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 複数の事例を理解し、複雑な状況下での看護を計画し実践する演習を通して、様々な優先順位の決定や、他者と協働すること、複数受け持ちでの倫理的配慮や安全性の確保について、リアルな現場をイメージしながら理解する。 2. 看護実践者としての自己の傾向に気づき、今後の課題を明確にする。 						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	9月期実習後 第1～3回：事例の看護を考える(西川) 第4～6回：関連学習をしながら行動計画の立案(西川) 第7回：計画の実施(ロールプレイ①)(後藤) 第8回：振り返り、対象理解を深めて再計画(後藤) 10月期実習後 第9回：臨床の複雑な状況をふまえて再計画(後藤) 10・11月期実習後 第10回：計画の実施(ロールプレイ②)(後藤) 第11回：振り返り(後藤) 統合実習後 第12回：統合実習での学びを共有、試験オリエンテーション(後藤) 第13、14回：客観的臨床能力試験(OSCE)(後藤) 第15回：凝縮ポートフォリオの発表(後藤)			プロジェクト学習の方法で グループ学習を進めていく ロールプレイ グループディスカッション ロールプレイ シミュレーション 講義 OSCE 凝縮ポートフォリオ作成と発表			
成績評価	・方法 知識確認テスト5点、OSCE75点（実技55点、リフレクション40点）、凝縮ポートフォリオ20点 合計100点						
事前課題・留意点	・事前課題 事例に関する学習は、個人で計画的に行う。 ・留意点 総合看護実践は、現場のリアルな状況をイメージし、事例の複雑な状況に対応した看護を、どのように判断し、行動していくかをプロジェクト学習という方法で学んでいく。詳しい内容は、授業前にオリエンテーションする。						
テキスト・必要物品	・テキスト 統合科目であるため、今まで学習したことすべての積み重ねである。特に指定するテキストはない。 ・必要物品 今まで培った知識と技術。						
参考文献							